東北大学大学院医学系研究科
保健学専攻看護学コース

年報

2018 年度（平成 30 年度）

Annual Report of

Course of Nursing, Health Sciences,

Tohoku University School of Medicine

2018

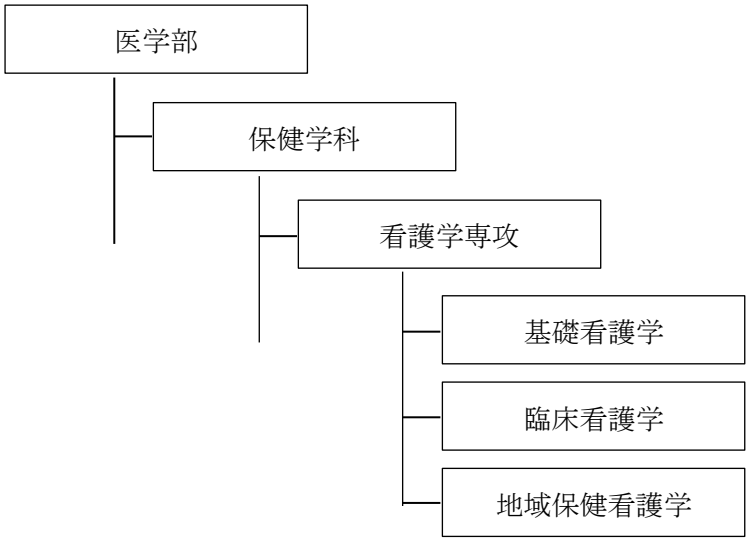
目次

1. 組織と分野 …… 2
1-1. 組織図 …… 2
1-2. 分野紹介 …… 3
2. カリキュラム …… 16
2-1. 学部カリキュラム …… 16
2-2. 大学院カリキュラム …… 17
3. 教員一覧 …… 19
4. 各種データ …… 21
4-1. 学部入試情報 …… 21
4-2. 大学院入試情報 …… 22
4-3. 学部卒業後の進路 …… 23
4-4. 大学院修了後の進路 …… 24
4-5. 大学院修了者の学位論文一覧 …… 26
4-6. 業績数の推移 …… 31
5. 研究業績 …… 32
5-1. 原著論文・総説（査読あり） …… 32
5-2. 原著論文・総説（査読なし）、紀要、解説 …… 36
5-3. 著書 …… 38
5-4. 国際学会発表 …… 39
5-5. 国内学会発表 …… 40
5-6. 外部資金獲得（主任研究） …… 48
5-7. 外部資金獲得（分担研究） …… 49
5-8. 外部資金獲得（その他） …… 50

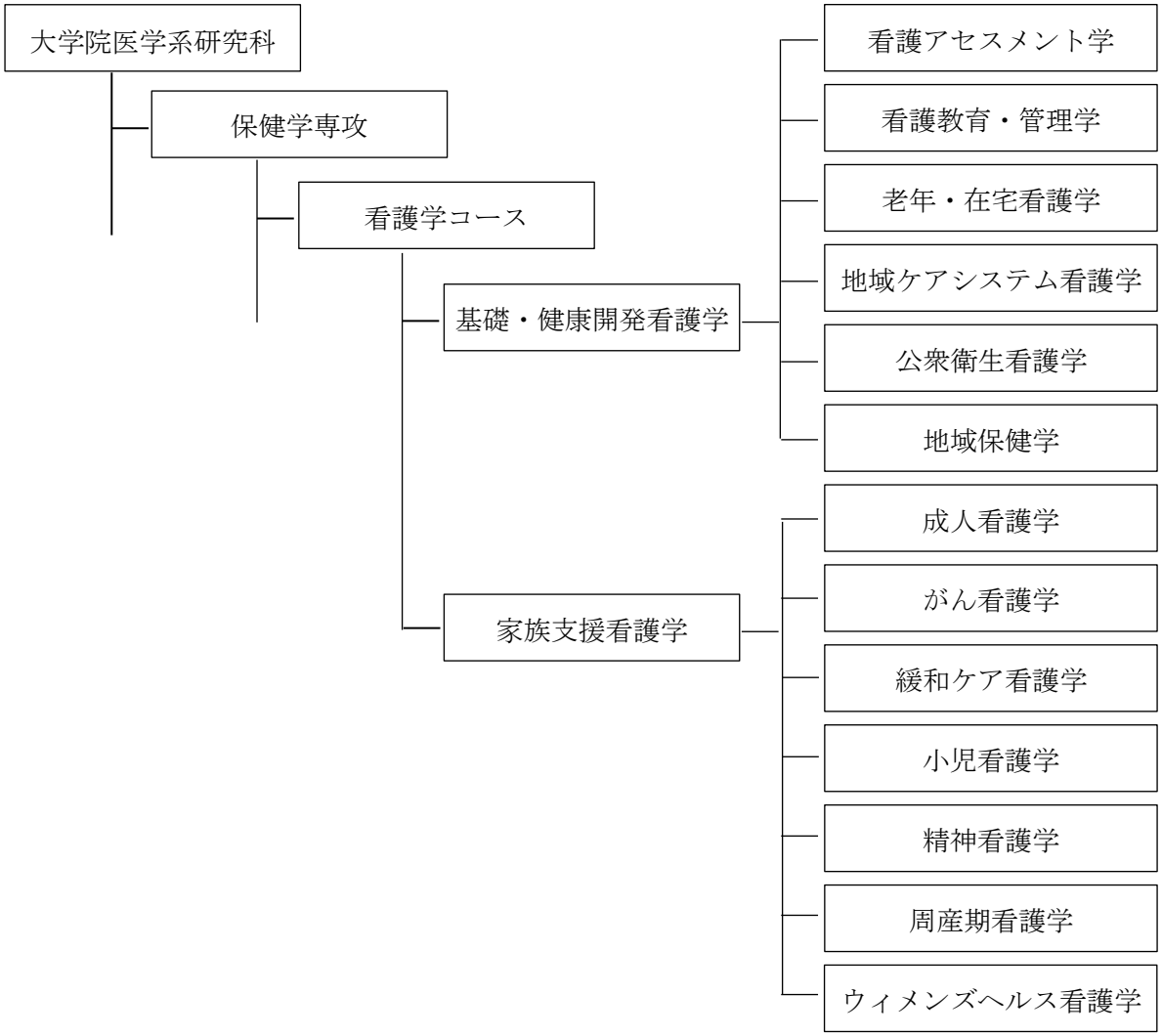
1.　組織と分野

1-1.　組織図（2019 年 4 月現在）

【医学部保健学科組織図】



【大学院医学系研究科保健学専攻組織図】



1-2.　分野紹介

研究分野名	看護アセスメント学分野

1.　**分野構成**（2019 年 4 月 1 日時点）

教授：丸山良子、講師：菅野恵美、助教：丹野寛大
大学院（博士課程）　2 名、大学院（修士課程）　 1 名、卒業研究生 17 名

2.　**主な研究テーマ**

看護アセスメント学分野では、看護の対象となる人々への適切な日常生活援助を行うために必要なアセスメントの方法、さらに科学的根拠に基づく看護援助技術の開発およびその検証を行うことを目的としています。
【主な研究テーマ】
1. 生理学的指標を用いた看護技術やケアの検証
2. 性ホルモンと自律神経活動の関連性
3. 環境が生体に及ぼす影響
4. 免疫学的手法による皮膚創傷治癒過程に関する科学的実証

3.　**主な研究業績**（2008 年 4 月以降）

【主な研究論文】
・Tanno H, Kawakami K, Kanno E, Suzuki A, Takagi N, Yamamoto H, Ishii K, Imai Y, Maruyama R, Tachi M. Invariant NKT cells promote skin wound healing by preventing a prolonged neutrophilic inflammatory response. Wound Repair Regen. 2017;25(5):805-815.
・Kanno E, Kawakami K, Tanno H, Suziki A, Sato N, Masaki A, Imamura A, Takagi N, Miura T, Yamamoto H, Ishii K, Hara H, Imai Y, Maruyama R, Tachi M. Contribution of CARD9-mediated signaling to wound healing in skin. Expe Dermatol. 2017;26(11):1097-1104.
・Kamakura M, Maruyama R. Elevated HbA1c Levels Are Associated with the Blunted Autonomic Response Assessed by Heart Rate Variability During Blood Volume Reduction. Tohoku J Exp Med. 2016;240(2):91-100.
・Bao S, Kanno E, Maruyama R. Blunted Autonomic Responses and Low-Grade Inflammation in Mongolian Adults Born at Low Birth Weight. Tohoku J Exp Med. 2016;240(2):171-79.
・Kanno E, Kawakami K, Miyairi S, Tanno H, Suzuki A, Kamimatsuno R, Takagi N, Miyasaka T, Ishii K, Gotoh N, Maruyama R, Tachi M. Promotion of acute-phase skin wound healing by Pseudomonas aeruginosa C4-HSL. Int Wound J. 2016;13(6):1325-35.
・Tanno H, Kawakami K, Ritsu M, Kanno E, Suzuki A, Kamimatsuno R, Takagi N, Miyasaka T, Ishii K, Imai Y, Maruyama R, Tachi M. Contribution of invariant natural killer T cells to skin wound healing. Am J Pathol. 2015;185(12):3248-57.
・Sasaki K, Maruyama R. Consciously Controlled Breathing Decreases the High-Frequency　Component of Heart Rate Variability by Inhibiting Cardiac Parasympathetic Nerve Activity. Tohoku J Exp Med. 2014;233(3): 155-63.
・Kanno E, Kawakami K, Miyairi S, Tanno H, Otomaru H, Hatanaka A, Sato S, Ishii K, Hayashi D, Shibuya N, Imai Y, Gotoh N, Maruyama R, Tachi M. Neutrophil-derived tumor necrosis factor-α contributes to acute wound healing promoted by *N*-(3-oxododecanoyl)-L-homoserine lactone from *Pseudomonas aeruginosa*. J Dermatol Sci. 2013;70(2):130-8.
・Kanno E, Kawakami K, Ritsu M, Ishii K, Tanno H, Toriyabe S, Imai Y, Maruyama R, Tachi M. Wound healing in skin promoted by inoculation with *P. aeruginosa* PAO1: the critical role of tumor necrosis factor-α secreted from infiltrating neutrophils. Wound Repair Regen. 2011;19(5):608-21.
【主な著書】
・松井憲子, 丸山良子. 術後患者のアセスメントと臨床判断. In: 丸山良子(編). 看護技術. 東京: メヂカルフレンド社; 2016. P. 67-74.
・丹野寛大, 菅野恵美. 創傷治癒と細菌感染.　In: 菅野恵美(編). 看護技術. 東京: メヂカルフレンド社; 2017. p. 4-7.

研究分野名	看護管理学分野

1. **分野構成**（2019 年 4 月 1 日時点）

教授：朝倉京子、助手：杉山祥子
大学院（博士課程）7 名、 大学院（修士課程）3 名、卒業研究生　10 名

2. **主な研究テーマ**

1. 看護職の職業移動と心理社会的労働環境に関する研究
2. 看護現象のジェンダー分析に関する研究
3. 看護職の専門職的自律性、自律的な臨床判断、反省的思考に関する研究

3. **主な研究業績**（2008 年 4 月以降）

【主な研究論文】

・Asakura K, Satoh M, Watanabe I. The Development of the Attitude Toward Professional Autonomy Scale for Nurses in Japan. Psychol Rep. 2016;119(3):761-782.
・Satoh M, Watanabe I, Asakura K. Occupational commitment and job satisfaction mediate effort-reward imbalance and the intention to continue nursing. Jpn J Nurs Sci. 2016;14(1):49-60.
・三浦恵美，朝倉京子．看護師長が認識する「サクセスフルな部署運営」．日本看護管理学会誌.2016;20(1),38-48.
・下條祐也，朝倉京子．両立支援的組織文化が職務満足度，組織コミットメント及び職業継続意思に及ぼす影響－妻/母親役割を担う看護職を対象とした分析－．日本看護科学会誌.2016;36:51-59.
・佐藤みほ，朝倉京子，渡邊生恵，下條祐也．日本語版職業コミットメント尺度の信頼性・妥当性の検討．日本看護科学会誌. 2015; 35: 63－71.
・Asakura T., Gee G. C, Asakura K. Assessing a culturally appropriate factor structure of the Center for Epidemiologic Studies Depression (CES-D) scale among Japanese Brazilians. International Journal of Cultural Studies. 2015; DOI:10.1080/17542863.2015.1074259
・朝倉京子，籠玲子．中期キャリアにあるジェネラリスト・ナースの自律的な判断の様相．日本看護科学会誌, 2013;33(4):43-52.
・Tei-Tominaga M, Asakura T, Asakura K. Stigma towards nurses with mental illnesses: a study of nurses and nurse managers in hospitals in Japan. Int J Ment Health Nurs. 2013;23(4):316-25.
・Asakura K, Watanabe I. The Survival Strategy of Male Nurses in Rural Areas of Japan. Jpn J Nurs Sci. 2011;8(2):194-202.
・籠玲子,朝倉京子.病院の外科病棟に勤務する看護師の役割認知とそれに関わる体験．看護研究. 2008;41(1):61-72.

【主な受賞】

・Asakura K, Watanabe I. The Survival Strategy of Male Nurses in Rural Areas of Japan. Jpn J Nurs Sci. 2011;8(2):194-202.（平成 23 年度東北大学男女共同参画奨励賞（沢柳賞）研究部門賞受賞）
・Shimojo Y, Asakura K, Satoh M, Watanabe I. Relationships between Work-family Organizational Culture, Organizational Commitment, and Intention to Stay in Japanese Registered Nurses. IOCH; Work Organization and Psychosocial Factors 2014 Congress; 2014 Sep; Adelaide, Australia.（Student Award for the Best Poster 受賞）

研究分野名	老年・在宅看護学分野

1. **分野構成**（2019 年 4 月 1 日時点）

教授：尾崎章子、助教：安藤千晶、清水恵
大学院（博士前期課程）：1名

2. **主な研究テーマ**

老年・在宅看護学分野では、超高齢社会を迎え、地域包括ケアが推進される中、人々が住み慣れた環境である在宅・施設・地域など、”生活の場”での看護を重視し、生活の場を志向した実践知の創出に取り組んでいます。

1. 在宅看護の提供基盤の強化に関する研究
   ：大学が運営する訪問看護ステーションの機能特性の明確化とモデル構築
2. 在宅看護技術の確立に関する研究
   ：在宅における死亡確認に関する看護プロトコールの開発
   ：訪問看護師が把握している在宅要介護高齢者の睡眠薬使用および副作用リスク
   ：フレイル高齢者における体温リズムに着目した睡眠マネジメントの開発

3. **主な研究業績**（2008 年 1 月以降）

【主な研究論文】

- 村嶋幸代，石橋みゆき，赤星琴美，安藤智子，尾﨑章子，岸恵美子 et al.地域看護に必要な教育内容の明確化-看護学基礎教育で修得すべき地域看護の能力（コンピテンシー）-. 日本地域看護学会誌，2017; 20(2):102-9.
- Ohashi Y, Taguchi A, Omori J, Ozaki A: Cultural Capital. A Concept Analysis. Public Health Nursing, 2016; 34(4):380–7.
- 金子智絵，尾﨑章子，齋藤美華，西崎未和：在宅認知症高齢者の家族介護者における性別による介護経験の男女差に関する文献検討. 日本在宅看護学会誌，2016;5(2):44-52.
- 尾﨑章子，齋藤美華,東海林志保：老年看護学教育にライフヒストリー・インタビューをとりいれた学習成果. 東北大学医学部保健学科紀要. 2016;25（1）:35-45.
- 其田貴美枝，尾﨑章子，西崎未和，笠原康代，御任充和子，栗原好美：在宅看護学実習中における自転車事故およびヒヤリ・ハット事象，日本交通心理学会第 81 回発表論文集，2016; 81:25-28.
- 西崎未和，尾﨑章子，其田貴美枝，畑中晃子，御任充和子，山本由香，新井由希子：看護学基礎教育における退院支援実習の学習効果.日本在宅看護学会誌.2015;3(2):1-10.

【主な著書】

- 尾﨑章子：睡眠障害と看護. In 亀井智子，小玉敏江（編）. 高齢者看護学第 3 版. 東京. 中央法規; 2018.p 222-5.
- 尾﨑章子：睡眠・休息の援助，系統看護学講座 基礎看護技術II 第 17 版. 東京: 医学書院; 2016. p 127-36.
- 尾﨑章子：訪問看護の制度と機能，In.河野あゆみ（編）. 在宅看護論. 東京: メジカルフレンド社; 2016. P 63-77.

研究分野名	地域ケアシステム看護学分野

1. 分野構成（2019 年 4 月 1 日時点）

教授(兼任)：大森純子、講師：津野陽子、助手：松永篤志
大学院（博士課程）0名、大学院（修士課程）0名、卒業研究生0名※公衆衛生看護学分野と合同体制

2. 主な研究テーマ

公衆衛生看護学分野と共同体制で、教育、研究、社会的活動に取り組んでいる。
【主な研究テーマ】
1. 地域保健福祉活動における協働の活動方法論に関する研究／2. 保健師活動に関する研究／3. 健康と生産性の最適化を目指す働き方モデルの構築／4. 被災地における中長期的保健福祉活動に関する研究

3. 主な研究業績（2014 年 1 月以降）

【主な著書】
・Sumikawa Tsuno Y, Togari T, Yamazaki Y. Perspectives on salutogenesis of scholars writing in Japanese. In: Mittelmark MB, Sagy S, Eriksson M, Bauer G, Pelikan JM, Lindström B, Espnes GA editors. Handbook of Salutogenes. Switzerland: Springer; 2016. p. 399-403.
【主な受賞】
・21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference The best presentation award (poster presentation)（松永篤志）2018.1.12.
・第 55 回日本医療・病院管理学会学術総会優秀演題賞(ポスター賞)（津野陽子）2017.9.18.
・第 90 回日本産業衛生学会優秀口演賞（津野陽子）2017.5.13.
・日本看護科学学会学術論文奨励賞（松永篤志）2016.12.10.

研究分野名	公衆衛生看護学分野

1. **分野構成**（2019 年 4 月 1 日時点）

教授：大森純子、准教授：田口敦子、助手：竹田香織、研究補佐員 2 名
大学院（博士課程）　５名、大学院（修士課程）　１２名、学部研究生　１名、卒業研究生　２２名

2. **主な研究テーマ**

米国の公衆衛生領域で主流となっている（CBPR：Community Based Participatory Research）という研究スタイルを用い、保健師など保健行政の関係職種や住民の方々と一緒に、「"地域への愛着"を育む健康増進プログラムの開発」、「近隣住民間の交流促進プログラムの開発」などに取り組み、個人変容と社会変容に参画しています。また、コミュニティの互助促進を含む、行政と住民ボランティアの効果的な協働方法を探索しています。

【主な研究テーマ】

1. 文化と健康観・ヘルスプロモーションに関する研究
2. 地域への愛着と健康に関するプログラム開発，地域への愛着を育む方法論（メソッド）開発
3. コミュニティの互助促進に関する研究
4. 行政と住民ボランティアの効果的な協働方法および評価に関する研究
5. 地域保健をめぐる政治・行政に関する研究

3. **主な研究業績**（2014 年 1 月以降）　※2014 年 1 月に分野新設のため

【主な研究論文】

・高橋和子，大森純子，田口敦子，齋藤美華，酒井太一，三森寧子．首都圏近郊都市部の向老期世代の“地域への愛着”に関連する要因．公衆衛生看護学会誌．2018;7(2):80-90.
・酒井太一，大森純子，高橋和子，三森寧子，小林真朝，小野若菜子，宮崎紀枝，安齋ひとみ，斉藤美華．向老期世代における“地域への愛着”測定尺度の開発．日本公衆衛生雑誌．2017; 63(11):664-674.
・Taguchi A, Murayama H, Murashima S. Association between municipal health promotion volunteers’ health literacy and their level of outreach activities in Japan. PLoS ONE, 2016; 11(10).
・大森純子，三森寧子，小林真朝，小野若菜子，安齋ひとみ，高橋和子，宮崎紀枝，酒井太一，齋藤美華．公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析．日本公衆衛生看護学会誌．2014; 3(1):40-48.　(2016 年日本公衆衛生看護学会学術奨励賞(優秀論文部門)受賞)
・Asahara K, Ono W, Kobayashi M, Omori J, Momose Y, Todome H, Konishi E. Ethical issues in practice: A survey of home‐visiting nurses in Japan. Japan Journal of Nursing Science. 2013; 10:98-108. (2014 年日本看護科学学会表彰論文優秀賞受賞)

【主な著書】

・神馬征峰，大森純子，宮本有紀（編）．系統看護学講座　健康支援と社会保障制度②公衆衛生 第 2 章　公衆衛生の活動対象．東京：医学書院；2015．p45-60.

【主な学会発表】

・大森純子．第 5 回日本公衆衛生看護学会学術集会大会長．2017 Jan 21-22.
・田口敦子，鎌田彩希，白川美弥子，矢津剛，神山芳美，沖永美幸，藤春千恵美，佐伯由美，菅野雄介，深堀浩樹，宮下光令．在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発(第 2 報)-チェックリスト使用前後の評価-．第 23 回日本緩和医療学会学術大会；2018 Jun 15-17，神戸．（第 23 回日本緩和医療学会学術大会優秀演題賞受賞）
・田口敦子，三笠幸恵，三森寧子，小林真朝，小野若菜子，高橋和子，酒井太一，宮崎紀枝，安齋ひとみ，齋藤美華，大森純子．“地域への愛着”を育む健康増進プログラムの開発　第 1 報　プログラムの作成と実施．第 4 回日本公衆衛生看護学会学術集会；2016 Jan 23-24；東京．(2016 年第 4 回日本公衆衛生看護学会学術集会優秀ポスター賞受賞)

研究分野名	地域保健学分野 Department of Community Health

1. 分野構成（2019 年 4 月 1 日時点）

教授(兼任):大森純子、講師: Cindy H Chiu、助手:中野久美子
大学院(博士課程)0 名、大学院(修士課程)0 名、卒業研究生 8 名

2. 主な研究テーマ

We are interested in conducting applied research to collect evidence for public health practice, especially in the field of global health.

Main research interests:

1. Global health security – surveillance and response to emerging and re-emerging diseases
2. Disaster mental health care using a positive psychology approach
3. Protection of humanitarian aid workers' physical security and psychological well-being

3. 主な研究業績（2016 年 4 月以降）

- Houatthongkham S, Sithivong N, Jennings G, Phengxay M, Teepruksa P, Khamphaphongphane B, Vongphrachanh P, Southalack K, Luo D, **Chiu C**. Trends in the incidence of acute watery diarrhoea in the Lao People's Democratic Republic, 2009–2013. Western Pacific Surveillance and Response Journal. 2016 Sep; 7(3): 1-9.
- **Chiu C**, **Nakano K**, and Omori J. Workshop to promote patient-centered cross-cultural care among Japanese nursing students. Nursing English Nexus. 2018 Oct; 2(2), 6-12.
- **Nakano K**, Nakamura Y, Shimizu A, Alamer M. Exploring roles and capacity development of village midwives in Sudanese communities. Rural and Remote Health. 2018 Oct; 18(4): 1-11.
- **Chiu C** and Gulland M. Using Games to Promote Confidence in English Communication among Japanese Nursing Students. Nursing English Nexus. 2019 Apr; 3(1): 6-12.
- Phan T, Luong C, Do H, **Chiu C**, Cao M, Nguyen T, Diep T, Huynh P., Nguyen T, Le H., Otsu S, Tran, P.D., Nguyen, T.V. and Kato, M. Findings and lessons from establishing Zika virus surveillance in southern Viet Nam, 2016. Western Pacific Surveillance and Response Journal. 2019 May; 10(2): 1-8.
- **Morokuma N** and **Chiu C.** Trends and characteristics of security incidents involving aid workers in health care settings: a 20-year review. Prehospital and Disaster Medicine. 2019 Jun; 34(3):265–273.

研究分野名	成人看護学分野

1. **分野構成**（2019 年 4 月 1 日時点）

教授：今谷　晃、講師：菊地史子、卒業研究生 2 名

2. **主な研究テーマ**

1. 胃粘膜上皮細胞の分化制御と胃癌に関する研究
2. *Helicobacter pylori* に対する免疫応答に関する研究
3. 粘膜免疫応答による上皮細胞の細胞内シグナル伝達機構の解明
4. 上部消化管疾患と遺伝子多型に関する研究
5. 緩和ケア病棟における終末期患者のリハビリテーションに関する研究
6. 終末期リハビリテーションと患者・家族感情との関連に関する質的研究
7. 終末期リハビリテーションにおける看護職とリハビリテーション職の協働に関する研究
8. 看護師自身のケア評価とケア満足度に関する研究

3. **主な研究業績**（2008 年 4 月以降）

【主な受賞】

・佐藤典子，佐藤しのぶ，菊地淳子，齋藤明美，菊池愛，佐々木知子，菊地史子，
緩和ケア病棟で終末期リハを行っている患者に関わる家族の思い.
第 15 回東北緩和医療研究会青森大会; 2011　Sept 23　；青森.（ベストプレゼンテーション賞）

・佐藤しのぶ，穀田知秋，菊池愛，吉野恵美子，佐藤典子，齋藤明美，畠山里恵，菊地史子
緩和ケア病棟で終末期患者と家族に関わる看護師とリハビリテーションスタッフとの協働を考える,
第18 回東北緩和医療研究会秋田大会 ; 2014　Aug10 ; 秋田（研究奨励賞）

研究分野名	がん看護学分野

1. **分野構成**（2019 年 4 月 1 日時点）

教授：佐藤冨美子、講師：佐藤菜保子、助手：千葉詩織
大学院（博士課程）4 名、大学院（修士課程） 4 名、卒業研究生　14 名

2. **主な研究テーマ**

がん看護学分野は、がんの罹患や治療によって影響を受けた個人や家族のクオリティ・オブ・ライフ（Quality of Life;QOL）に関する看護理論の開発をテーマに研究に取り組んでいます。
【主な研究テーマ】
1. 乳がん患者の術後上肢機能障害予防改善に向けた介入効果に関する研究
2. 膵癌患者の治療に伴う QOL 維持向上に関する研究
3. 前立腺がん術後患者のテレナーシング介入効果に関する研究
4. がん治療を受ける患者の症状マネジメントに関する研究
5. がん患者および家族のストレスと看護介入に関する研究

3. **主な研究業績**（2008 年 4 月以降）

【主な研究論文】
・Sato N, Hasegawa Y, Saito A, Motoi F, Ariake K, Katayose Y, Nakagawa K, Kawaguchi K, Fukudo S, Unno M, Sato F. Association between chronological depressive changes and psysical symptoms in postoperative pancreatic cancer patients.BioPsychoSocoal medicine, 2018; 12: 13. doi: 10.1186/s13030-018-0132-1.
・Sato N, Katayose Y, Motoi F, Nakagawa K, Sakata N, Kawaguchi K, Sato F, Unno M. Strategy of Symptom-Targeted Intervention Based on Patient Quality of Life at Three Months After Pancreatectomy. Pancreas 2016; 45(6):920-921.
・Sato F, Arinaga Y, Sato N, Ishida T and Ohuchi N. The perioperative educational program for improving upper arm dysfunction in patients with breast cancer at 1-year follow-upn: a prospective, controlled trial. Tohoku J Exp Med. 2016; 238:229-36.
・Arinaga Y, Piller N, Sato F, How can we know the true magnitude of any breast cancer related lymphema if we do not know which is the true dominant arm?.Journal of lymphedema, 2016;　11(1),27-34.
・Arinaga Y, Sato F, Piller N, Kakamu T, Kikuchi K, Ohtake T, Sakuyama A, Yotsumoto F, Hori T, Sato N, A 10 minute self-care program may reduce breast cancer-related lymphedema;a six-month prospective longitudinal comparative study.Lymphology,2016;49,93-106.
・Sato N, Katayose Y, Motoi F, Nakagawa K, Sakata N, Kawaguchi K, Sato F, Unno M. Strategy of Symptom-Targeted Intervention Based on Patient Quality of Life at Three Months After Pancreatectomy. Pancreas 2016; 45(6):920-921.
・Sato F, Ishida T and Ohuchi N. The perioperative educational program for improving upper arm dysfunction in patients with breast cancer: a controlled trial. Tohoku J Exp Med. 2014; 232:115-22.
【主な著書】
・　佐藤冨美子.乳房の手術を受ける患者の看護,乳房再建術を受ける患者の看護.北島正樹・江川幸二編,系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学論 第 9 版,東京,医学書院;2017.p63-82.
・　佐藤冨美子. がん手術後合併症の観察と看護,乳がん・婦人科がんの周術期ケア.神田清子・二渡玉江編,成人看護技術-がん・ターミナルケア,東京,メジカルフレンド社;2015.p112-21,130-39.
【主な受賞】
・小室葉月,佐藤菜保子,佐々木彩加,鈴木直輝,鹿野理子,田中由佳里,山口（加畑）由美,金澤素,割田仁,青木正志，福士審．コルチコトロピン放出ホルモン受容体 2 遺伝子における一塩基多型、ハプロタイプと過敏性腸症候群との関連．第 22 回日本行動医学会;2015 Dec 16-17;仙台（最優秀演題賞）

研究分野名　　緩和ケア看護学分野

1. **分野構成**（2019 年 4 月 1 日時点）

教授:宮下光令、助教:青山真帆、 技術補佐員 2 名、
大学院(博士課程)5 名、大学院(修士課程)4 名、卒業研究生 12 名

2. **主な研究テーマ**

緩和ケア看護学分野は、生命脅かす疾患に罹患し、身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛を抱える患者さまやご家族の QOL (Quality of Life：生活の質) を維持し向上させることにより、患者さまやご家族が苦痛なく安心して生活することを支えるための看護の提供を目的に研究に取り組んでいます。

【主な研究テーマ】

1. がん・非がんの緩和ケアに関する研究
2. がん・非がんの緩和ケアの質の評価と遺族調査
3. がん・非がんの緩和ケアにおける Patient-Reported Outcomes の活用
4. がん・非がんの緩和ケアにおける Big Data、電子カルテ、医療レセプト、自然言語処理、人工知能の活用
5. がん患者の QOL を向上する看護介入に関する研究

3. **主な研究業績**（2009 年 10 月以降）　※2009 年 10 月に分野新設のため

【主な研究論文】

・ Aoyama M, Sakaguchi Y, Morita T, Ogawa A, Fujisawa D, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. Factors associated with possible complicated grief and major depressive disorders. Psycho-oncology. 2018;27(3):915-21.
・ Masukawa K, Aoyama M, Morita T, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. The Japan hospice and palliative evaluation study 4: a cross-sectional questionnaire survey. BMC Palliat Care. 2018; 17(1): 66
・ Sato Y, Miyashita M, Sato K, Fujimori K, Ishikawa KB, Horiguchi H, Fushimi K, Ishioka C. End-of-life care for cancer patients in Japanese acute care hospitals: A nationwide retrospective administrative database survey. Jpn J Clin Oncol. 2018; 48(10): 877-83.
・ Nakazawa Y, Yamamoto R, Kato M, Miyashita M, Kizawa Y, Morita T. Improved knowledge of and difficulties in palliative care among physicians during 2008 and 2015 in Japan: Association with a nationwide palliative care education program. Cancer. 2018 Feb 1; 124(3): 626-35.
・ Aoyama M, Morita T, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. The Japan HOspice and Palliative Care Evaluation Study 3: Study design, characteristics of participants and participating institutions, and response rates.　American Journal of Hospice and Palliative Medicine. 2017;34(7):654-64.
・ Kinoshita H, Maeda I, Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Shirahige Y, Takebayashi T, Yamaguchi T, Igarashi A, Eguchi K. Place of Death and the Differences in Patient Quality of Death and Dying and Caregiver Burden. J Clin Oncol. 2015 Feb 1;33(4):357-63.
・ Morita T, Miyashita M, Yamagishi A, Akiyama M, Akizuki N, Hirai K, Imura C, Kato M, Kizawa Y, Shirahige Y, Yamaguchi T, Eguchi K. Effects of a programme of interventions on regional comprehensive palliative care for patients with cancer: a mixed-methods study. Lancet Oncol. 2013;14(7):638-46.

【主な著書】

・ 宮下光令, et al. In 宮下光令（編）. ナーシング・グラフィカ 成人看護学（6）：緩和ケア 第 2 版. 大阪: メディカ出版; 2016. 310p

【主な受賞】

・ 青山真帆，齊藤愛，菅井真理，森田達也，木澤義之，恒藤暁，志真泰夫，宮下光令. 宗教的背景のある施設において患者の望ましい死の達成度が高い理由. 第 21 回日本緩和医療学会学術大会, 2016 June 16-18, 京都　(最優秀演題)

研究分野名	小児看護学分野

1. **分野構成**（2019 年 4 月 1 日時点）

教授：塩飽　仁、助教：入江亘、助手（兼）：菅原明子、
大学院（博士課程後期）4 名、大学院（博士課程前期）1 名、卒業研究生 8 名

2. **主な研究テーマ**

小児看護学分野は、子供と家族を発達上のライフイベントに応じて支援する看護を追求している分野です。特に子供と家族を心理・社会的に支える看護の研究、教育、実践に力点を置き、東北大学病院との unification や、学校、地域、医療機関、他大学などとの連携のもとに活動しています。
我々の分野の研究、教育、実践のおもなテーマは以下の通りです。

1. 子供と家族を心理・社会的に支える看護支援の開発
2. 発達障害の子供の発達援と家族へのメンタルヘルスケア
3. 小児がんの子供と家族のトータルケア

3. **主な研究業績**（2008 年 4 月以降）

【主な研究論文】

・Irie W, Shiwaku H, Taku K, Suzuki Y, Inoue Y. Roles of Reexamination of Core Beliefs and Rumination in Posttraumatic Growth Among Parents of Children With Cancer: Comparisons With Parents of Children With Chronic Disease. Cancer Nurs. 2019. doi: 10.1097/NCC.0000000000000731.
・Nagoya Y, Miyashita M, Shiwaku H.:Pediatric Cancer Patients' Important End-of-Life Issues, Including Quality of Life: A Survey of Pediatric Oncologists and Nurses in Japan.J Palliat Med. 2017;20(5):487-493.
・後藤清香, 塩飽　仁. 小児がん患者の復学支援に関する文献検討. 北日本看護学会誌 2019;21(2):53-64.
・佐藤幸子, 塩飽　仁, 遠藤芳子, 今田志保. 心身症・神経症児の学校等の仲間集団における対人関係で困難感が高まる場面の検討. 北日本看護学会誌　2019;21(2):17-24.
・入江　亘, 名古屋祐子, 羽鳥裕子, 吉田沙蘭, 尾形明子, 松岡真里, 多田羅竜平, 永山　淳, 宮下光令, 塩飽　仁. 看取りの時期にある小児がんの子どもをもつ家族向けパンフレット「これからの過ごしかたについて-子ども版-」の小児がんに携わる医療者の意見による使用可能性の検討. Palliative Care Research　2018;13(4):383-391.
・入江　亘, 塩飽　仁, 名古屋祐子. 小児がんを経験した子どもの親の心的外傷後成長を構成する要素ー慢性疾患をもつ子どもの親との対比ー. 小児がん看護　2018;13(1):17-27.
・入江　亘, 塩飽　仁, 鈴木祐子, 井上由紀子. 慢性疾患を抱える子どもをもつ親の就労実態および健康関連 QOL（Quality　of Life）との関連. 北日本看護学会誌　2018;21(1):1-11.
・名古屋祐子, 塩飽　仁, 宮下光令. 医師と看護師が終末期の小児がん患者と家族のケアに関する相談を行いやすいと感じる専門職種とその関連要因. Palliative Care Research 2018;13(1):89-98.
・入江　亘, 長谷川大輔, 神谷尚宏, 吉川久美子, 永瀬恭子, 関冨晶子, 他. 小児病棟に入院する小児がんの子どもの生活に対する家族の意識調査. 日本小児血液・がん学会雑誌　2018;55(1):7-14.
・佐藤幸子, 塩飽　仁, 遠藤芳子, 他. 子どもの情動調整と心身症状の関連. 小児保健研究 2016;75(3):343-349.

【主な著書】

・塩飽　仁, 井上由紀子. 精神疾患と看護「看護総論」「疾患をもった小児の看護」. In：奈良間美保, 丸光惠（編）. 系統看護学講座専門 23 小児看護学 2　小児臨床看護各論. 東京: 医学書院; 2015. 481-514.

【主な受賞】

・入江　亘, 塩飽　仁, 名古屋祐子. 日本小児がん看護学会　平成 30 年度研究奨励賞.
・佐藤志保, 佐藤幸子, 塩飽　仁. 日本看護研究学会平成 24 年度奨励賞.
・高見三奈, 佐藤幸子, 塩飽　仁. 日本看護研究学会平成 22 年度奨励賞.

研究分野名	精神看護学分野

1. **分野構成**（2019 年 4 月 1 日時点）

教授：吉井初美、助教：光永憲香、助教：小林奈津子
大学院（博士課程）　1 名、 卒業研究生　11 名

2. **主な研究テーマ**

精神看護学分野は、精神障害者およびその家族を支援することを目的とした研究に取り組んでいる。精神障害者に関しては、精神疾患の発症ないし再発予防やリカバリー、スティグマ対策などの研究を、家族に関しては、精神科以外の患者の家族に対する研究を行っている。
【主な研究テーマ】
1.精神疾患の一次予防、早期支援、リカバリー
2.周産期のメンタルヘルス
3.家族のメンタルヘルス
4.精神障害者に関するスティグマ研究

3. **主な研究業績**（2008 年 4 月以降）

【主な研究論文】
- Seto M, Nemoto H, Kobayashi N, et al. Post-disaster mental health and psychosocial support in the areas affected by the Great East Japan Earthquake: a qualitative study. BMC Psychiatry. 2019 Aug 27;19(1):261.
- Yoshii H, Mitsunaga N, Saito H. Knowledge and Attitudes about Schizophrenia among Employers in Japan. 2018, Global Journal of Health Science, 10(2): 60-69.
- Yoshii H, Kitamura N, Akazawa K, Saito H. Effects of an educational intervention on oral hygiene and self-care among people with mental illness in Japan: a longitudinal study. BMC Oral Health　2017, 1　17−1
- 光永憲香, 田代綾菜, 本間翠, 吉井初美. 統合失調症を有する人の就労継続を困難にする要因−就労に関連して陰性感情が生じた状況に焦点を当てて−. 産業精神保健. 2016, 24(2)：133-141
- Mazumder AH, Alam T, Yoshii H, et al. Positive and negative symptoms in patients of schizophrenia: A cross sectional study. Acta Medica International. 2015, 2(1): 48-52.
- Yoshii H,et al. Effect of an educationprogram on improving knowledge of schizophrenia among parents of junior and senior high school students in Japan. BMC Public Health. 2011, 11: 323.
- Yoshii H, et al. Stigma toward schizophrenia among parents of junior and senior high school students in Japan. BMC Res Notes. 2011, 4: 558.

【主な受賞】
- 濱家由美子, 内田知宏, 光永憲香, 大室則幸, 松本和紀, 松岡洋夫. 顕在発症後早期の psychosis に対する心理的アプローチ—個別的な早期支援プログラムの試み— 第 5 回日本統合失調症学会; 2010 Mar 26-27; 福岡.（奨励賞）

研究分野名	周産期看護学分野

1. 分野構成（2019 年 4 月 1 日時点） ※分野構成はウィメンズヘルス看護学分野と統合(2018 年 11 月~)

教授(兼任)：吉沢豊予子、准教授：中村康香、准教授：吉田美香子、助教：武石陽子、事務補佐員 1 名
大学院（博士後期課程）5 名，大学院（博士前期課程）1 名、卒業研究生 22 名

2. 主な研究テーマ

周産期看護学分野は、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期を含む次世代の育成に繋がる子育てなど、女性や家族の健康に関することを、その時代に応じつつ様々な価値観の変化に伴う問題解決に対して、周産期女性やご家族が安心して生活することを支えるための助産活動の提供を目的に研究に取り組んでいます。
【主な研究テーマ】
1. 周産期にある女性のメンタルヘルスケアに関する研究
2. 周産期医療体制の研究
3. 助産師の自立支援に必要な卒後教育体制に関する研究
4. 地方における看護・助産教育成立過程の研究
5. 学生の看護助産技術修得過程の研究
6. 災害後の母子保健活動に関する研究
7. 助産院における産後ケアに関する研究
8. 国際母子保健に関する研究

3. 主な研究業績

【主な研究論文】
- Sato M, Sato M, Oyamada N, Sato K. Development of a Japanese version of Salmon's Item List suitable for comparing satisfaction with childbirth experience between different modes of delivery. J Jpn Acad Midwif. 2018;32(2):113-124.
- Sato M, Oshitani H, Tamaki R, Oyamada N, Sato K, Nadra AR, Landicho J, Alday PP, Lupisan S, Tallo VL. Father's roles and perspectives on healthcare seeking for children with pneumonia: findings of a qualitative study in a rural community of the Philippines. BMJ Open. 2018;8(11):e023857.
- Sato K, Oiakawa M, Hiwatashi M, Sato M, Oyamada N. Factors relating to the mental health of women who were pregnant at the time of the Great East Japan earthquake: analysis from month 10 to month 48 after the earthquake. Biopsychosoc Med. 2016;27;10:22: 1-6.
- Sato M, Nakamura Y, Atogami F, Horiguchi R, Tamaki R, Oshitani H, Yoshizawa T. Immediate Needs and Concerns among Pregnant Women during and after Typhoon Haiyan (Yolanda). PLoS Curr. 2016;25;8.
- Tsuchiya M, Aida J, Hagiwara Y, Sugawara Y, Tomata Y, Sato M, et al. Panel study of periodontal disease and insomnia among Great East Japan Earthquake victims. Tohoku J Exp Med. 2015;237(2):1-8.
- Sato M, Atogami F, Nakamura Y, Yoshizawa T. Experiences of Public Health Nurses in Remote Communities during the Great East Japan Earthquake. Health Emergency and Disaster Nursing. 2015;2(1):1-10.

【主な受賞】
- 佐藤喜根子：妊婦に対する温泉浴の安全性に検証,般財団法人日本健康開発財団最優秀賞 2015. 3.
- 小山田信子： 東北大学医学部・医学系研究科教育貢献賞受賞 2017.3

研究分野名	ウィメンズヘルス看護学分野

1. 分野構成（2019 年 4 月 1 日時点） ※分野構成は周産期看護学分野と統合(2018 年 11 月~)

教授(兼任)：吉沢豊予子、准教授：中村康香、准教授：吉田美香子、助教：武石陽子、事務補佐員 1 名
大学院（博士後期課程）5 名，大学院（博士前期課程）1 名、卒業研究生 22 名

2. 主な研究テーマ

女性の健康に係わることを広く研究し，一生涯にわたる女性の健康の向上およびQOLの向上を目指し，研究に取り組んでいます.

【主な研究テーマ】

1. 生涯を通じた男性のケアの担い手としての発達支援方法に関する研究
2. 家族形成時期の coparenting に関する研究
3. 妊孕力の認識に関する研究
4. 妊娠期女性の身体活動量に関する研究
5. 就労妊婦に関する研究
6. リンパ浮腫・治療・ケアに関する研究
7. プレシジョンヘルスに関する研究

3. 主な研究業績（2008 年 4 月以降）

【主な研究論文】

- Atogami F, Yamaguchi N, Nakamura Y, Yoshizawa T. What does Klinefelter syndrome mean for men with azoospermia in Japan? J Midwifery Reprod Health. 2018;6(2):1230-1235.
- Chung HF, Pandeya N, Dobson AJ, Kuh D, Brunner EJ, Yoshizawa T, et al. The role of sleep difficulties in the vasomotor menopausal symptoms and depressed mood relationships: an international pooled analysis of eight studies in the interLACE consortium. Psychol Med. 2018;48(15):2550-2561.
- Nakamura Y, Sato M, Watanabe I. Positive Emotion and its Changes during Pregnancy: Adjunct Study of Japan Environment and Children's Study in Miyagi Prefecture. Tohoku J Exp Med. 2018;245(4):223-230.
- Yoshizawa T, Aoyama M, Takeishi Y, Nakamura Y, Atogami F. Japanese Version of the Quality of Life Measurement for Limb Lymphedema (leg) (J-LYMQOL-l): its Reliability and Validity. Lymphoedema Research and Practice. 2017;5(1):1-8.
- Nakamura Y, Wada A, Atogami F, Yoshizawa T. Feelings of guilt toward the baby and workplace commitment related to prenatal comfort in pregnant Japanese working women. International Journal Of Occupational Health and Public Health Nursing. 2017;4(1):45-58.
- Kikuchi K, Toyota M, Endo K, Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. Maternal Gaze Behaviors During Latching-On for Breastfeeding. Breastfeed Med. 2017;12(6):359-64.
- Mishra GD, Chung HF, Pandeya N, Dobson AJ, Jones L, Yoshizawa T, et al. The InterLACA study: Design, data harmonization and characteristics across 20 studies on women's health. Maturitas. 2016;2:176-185.

【主な著書】

- 吉沢豊予子, 中村康香 他. In：吉沢豊予子・鈴木幸子(編). 新訂第 4 版マタニティアセスメントガイド, 真興交易医書出版部, 2016.
- 新道幸恵（監）. 吉沢豊予子, 跡上富美, 中村康香（企画）. メディカエクセレント DVD シリーズ 手掌圧が見てわかる！[分娩介助技術]-分娩介助のポジショニングと可視化された手掌圧で技術の向上に役立つ. 大阪: メディカ出版; 2013.

【主な受賞】

- 川尻舞衣子, 中村康香, 長坂圭子, 武石陽子, 跡上富美, 吉沢豊予子. 第 12 回日本母性看護学会学術論文賞 2018
- 山口典子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子. 第 10 回日本母性看護学会学術論文賞 2016
- 中村康香. 平成 26 年度東北大学医学部・医学系研究科教育貢献賞 2015

2.　カリキュラム

2-1.　学部カリキュラム

【平成 31 年度 看護学専攻専門教育科目】

※平成 28 年度以前入学学生用

区分			授業科目	単位数 必修	単位数 選択	時間	開設年次・セメスター・時間数 1年次 1	1年次 2	2年次 3	2年次 4	3年次 5	3年次 6	4年次 7	4年次 8	備考
専門教育科目	専門基礎科目	人間の理解科目	医療解剖学	2		60	30	30							
			生体機能学Ⅰ	1		30	30								
			生体機能学Ⅱ	1		30		30							
			代謝学	2		30		30							
			遺伝情報学　※1		1	15								15	
			免疫学	2		30			30						
			発達心理学	1		15	15								
			生命倫理	1		15		15							
			病理学	2		30			30						
			病原微生物学	1		30	30								
			臨床薬理学	2		30				30					
			家族関係論	1		15					15				
			公衆衛生学	1		30				30					
		健康の支援科目	社会保障制度論	1		15								15	
			保健医療福祉行政論	1		15					15				
			国際保健学	1		15								15	
			食生活論	1		15			15						
			運動生活論	1		15				15					
			リハビリテーション学	1		15				15					
			看護情報演習	1		30					30				
			医療経済学		1	15								15	
			看護管理・政策論	2		30								30	
			看護教育学	1		15								15	
	専攻専門科目	看護基幹科目	看護学原論Ⅰ	1		15	15								
			看護学原論Ⅱ	1		15		15							
			看護技術論Ⅰ	1		30			30						
			看護技術論Ⅱ	2		60			30	30					
			看護技術論Ⅲ	1		30					30				
			看護技術論Ⅳ	1		30					30				
			看護研究原論	1		15					15				
			基礎看護学実習Ⅰ	1		45		45							
			基礎看護学実習Ⅱ	2		90					90				
		看護展開科目	成人看護学原論	1		15			15						
			成人看護方法論Ⅰ	2		60				60					
			成人看護方法論Ⅱ	2		60					60				
			成人看護学実習Ⅰ	3		135						135			
			成人看護学実習Ⅱ	3		135						135			
			老年看護学原論	1		15			15						
			老年看護方法論	2		60				60					
			老年看護学実習	3		135						135			
			小児看護学原論	1		15			15						
			小児看護方法論	2		60				30	30				
			小児看護学実習	3		135						135			
			精神看護学原論	1		15				15					
			精神看護方法論	2		60					60				
			精神看護学実習	3		135						135			
			女性健康科学原論	1		15				15					
			母性看護方法論	2		60					60				
			母性看護学実習	3		135						135			
			地域看護学原論	1		15			15						
			地域看護方法論	2		45				45					
			地域看護学実習	1		45					45				
			在宅看護論	1		30					30				
			緩和ケア看護論	1		15					15				
			助産学原論　※1		1	15					15				助産師の国家試験受験資格を希望する者は※1の科目は必修となる。
			助産診断学　※1		2	60						60			
			助産技術学　※1		3	90						30	60		
			助産管理論　※1		1	15								15	
			新生児看護論　※1		1	30					30				
			助産学実習　※1		8	360							180	180	
		総合科目	総合看護学実習	2		90							90		
			学術英語	1		15						15			
			チーム医療	1		15								15	
			卒業研究	3		90						30	30	30	

※平成 29 年度以降入学学生用

区分			授業科目	単位数 必修	単位数 選択	時間	開設年次・セメスター・時間数 1年次 1	1年次 2	2年次 3	2年次 4	3年次 5	3年次 6	4年次 7	4年次 8	備考
専門教育科目	専門基礎科目	人間の理解科目	医療解剖学	2		60	30	30							
			生体機能学Ⅰ	1		30	30								
			生体機能学Ⅱ	1		30		30							
			代謝学	2		30		30							
			遺伝情報学　※1		1	15								15	
			免疫学	2		30			30						
			発達心理学	1		15	15								
			生命倫理	1		15		15							
			病理学	2		30			30						
			病原微生物学	1		30	30								
			臨床薬理学	2		30				30					
			家族関係論	1		15			15						
			公衆衛生学	1		30				30					
		健康の支援科目	保健医療福祉行政論	2		30			30						
			国際保健学	1		15								15	
			食生活論	1		15			15						
			運動生活論	1		15				15					
			リハビリテーション学	1		15				15					
			看護情報演習	1		30					30				
			医療経済学		1	15								15	
			看護管理・政策論	2		30								30	
			看護教育学	1		15							15		
			放射線リスク科学		1	15			15						
	専攻専門科目	看護基幹科目	看護学原論Ⅰ	1		15	15								
			看護学原論Ⅱ	1		15		15							
			看護技術論Ⅰ	1		30			30						
			看護技術論Ⅱ	2		60			30	30					
			看護技術論Ⅲ	1		30					30				
			看護技術論Ⅳ	1		30					30				
			看護研究原論	1		30			30						
			基礎看護学実習Ⅰ	1		45		45							
			基礎看護学実習Ⅱ	2		90					90				
		看護展開科目	成人看護学原論	1		15			15						
			成人看護方法論Ⅰ	2		60				60					
			成人看護方法論Ⅱ	2		60					60				
			成人看護学実習Ⅰ	3		135						135			
			成人看護学実習Ⅱ	3		135						135			
			老年看護学原論	1		15			15						
			老年看護方法論	2		60				60					
			老年看護学実習	3		135						135			
			小児看護学原論	1		15			15						
			小児看護方法論	2		60				30	30				
			小児看護学実習	3		135						135			
			精神看護学原論	1		15				15					
			精神看護方法論	2		60					60				
			精神看護学実習	3		135						135			
			女性健康科学原論	1		15				15					
			母性看護方法論	2		60					60				
			母性看護学実習	3		135						135			
			地域看護学原論	1		15			15						
			地域看護方法論	2		45				45					
			地域看護学実習	1		45					45				
			在宅看護論	1		30					30				
			緩和ケア看護論	1		15					15				
			助産学原論　※1		1	15					15				助産師の国家試験受験資格を希望する者は※1の科目は必修となる。
			助産診断学　※1		2	60						60			
			助産技術学　※1		3	90						30	60		
			助産管理論　※1		1	15								15	
			新生児看護論　※1		1	30					30				
			助産学実習　※1		8	360							180	180	
		総合科目	総合看護学実習	2		90			90						
			学術英語	1		15						15			
			チーム医療	1		15								15	
			卒業研究	4		120					120				

2-2.　大学院カリキュラム

【平成 31 年度 保健学専攻博士課程（看護学コース、前期 2 年の課程)】

科目区分	授業科目	一般コース 必修	一般コース 選択	代表教員
共通選択科目	医療倫理学	1		浅井
	看護学研究方法論		2	吉沢
	看護学研究のための統計学		2	宮下
	看護倫理		2	朝倉
	理論看護学アプローチ		2	朝倉
	看護科学論Ⅰ		2	朝倉
	医療教育論		2	吉沢
	医療･看護政策論		2	大森
	がん科学		2	今谷
	がん診療トレーニング		2	今谷
	先端放射線科学概論		2	権田
	検査医科学概論		2	鈴木
	災害医学概論		2	張替
	医用動物学		1	三好
	分子・遺伝生物学Ⅰ		1	中山（啓）
	医学統計学入門		2	山口
	医学データ解析入門		2	山口
特別研究科目	論文研究	１０		各指導教授
	課題研究		5	各指導教員

科目区分			授業科目	一般コース 必修	一般コース 選択	代表教員
専門科目	看護学コース	基礎・健康開発看護学領域	看護アセスメント学特論Ⅰ		2	丸山
			看護アセスメント学特論Ⅱ		2	丸山
			看護アセスメント学セミナー		4	丸山
			看護管理学特論Ⅰ		2	朝倉
			看護管理学特論Ⅱ		2	朝倉
			看護管理学特論セミナー		4	朝倉
			老年・在宅看護学特論Ⅰ		2	尾﨑
			老年・在宅看護学特論Ⅱ		2	尾﨑
			老年・在宅看護学セミナー		4	尾﨑
			地域ケアシステム看護学特論Ⅰ		2	大森
			地域ケアシステム看護学特論Ⅱ		2	大森
			地域ケアシステム看護学セミナー		4	大森
			地域保健学セミナー		4	大森
			公衆衛生看護学特論Ⅰ		2	大森
			公衆衛生看護学特論Ⅱ		2	大森
			公衆衛生看護学セミナー		4	大森
		（保健師必修科目）	公衆衛生看護学原論		2	大森
			公衆衛生看護学活動論Ⅰ		2	田口
			公衆衛生看護学活動論Ⅱ		4	田口
			地域ケアシステム看護学活動論Ⅰ		4	津野
			地域ケアシステム看護学活動論Ⅱ		4	津野
			疫学		2	大森
			保健統計学		2	大森
			保健医療福祉行政特論		3	大森
			公衆衛生看護学実習Ⅰ		2	田口
			公衆衛生看護学実習Ⅱ		2	田口
			地域ケアシステム看護学実習Ⅰ		3	津野
			地域ケアシステム看護学実習Ⅱ		3	津野
		（保健師選択科目）	公共哲学		2	菅原（真）
			社会システム論		2	徳川
			環境保健論		2	大森
			災害メンタルヘルス論		2	富田［災害］

科目区分			授業科目	一般コース 必修	一般コース 選択	代表教員
専門科目	看護学コース	家族支援看護学領域	コンサルテーション論		2	塩飽
			臨床薬理学		2	今谷
			フィジカルアセスメント		2	佐藤(冨)
			病態生理学		2	塩飽
			がん看護学特論Ⅰ		2	佐藤(冨)
			がん看護学特論Ⅱ		2	佐藤(冨)
			がん看護学セミナーⅠ		2	佐藤(冨)
			がん看護学セミナーⅡ		2	佐藤(冨)
			緩和ケア看護学特論Ⅰ		2	宮下
			緩和ケア看護学特論Ⅱ		2	宮下
			緩和ケアトレーニング		1	宮下
			緩和ケア看護学セミナーⅠ		2	宮下
			緩和ケア看護学セミナーⅡ		2	宮下
			がん看護専門看護学実習Ⅰ		2	佐藤(冨)
			がん看護専門看護学実習Ⅱ		6	佐藤(冨)
			がん看護専門看護学実習Ⅲ		2	宮下
			小児看護学特論Ⅰ		2	塩飽
			小児看護学特論Ⅱ		2	塩飽
			小児看護学セミナーⅠ		4	塩飽
			小児看護学セミナーⅡ		2	塩飽
			小児看護学セミナーⅢ		2	塩飽
			小児専門看護学実習Ⅰ		2	塩飽
			小児専門看護学実習Ⅱ		8	塩飽
			リエゾン精神看護論		2	吉井
			家族のメンタルヘルス論		2	吉井
			精神保健看護学セミナー		4	吉井
			周産期看護学特論Ⅰ		2	吉沢
			周産期看護学特論Ⅱ		2	吉沢
			周産期看護学セミナー		4	吉沢

【平成 31 年度 保健学専攻博士課程（看護学コース、後期 3 年の課程)】

科目区分		授業科目	必修	選択	代表教員
共通科目	共通選択科目	健康科学論		2	高橋（和） 丸山 齋藤(春)
		看護科学論Ⅱ		2	朝倉
		看護科学論Ⅲ		2	吉沢
		分子医科学		2	林
		社会・環境医学		2	藤森
特別研究科目		保健学論文研究	8		各指導教授

科目区分		授業科目	必修	選択	代表教員
専門科目	看護学コース	基礎・健康開発看護学セミナーⅠ		2	丸山
		基礎・健康開発看護学セミナーⅡ		2	尾﨑
		家族支援看護学セミナーⅠ		2	塩飽
		家族支援看護学セミナーⅡ		2	吉沢
		基礎・健康開発看護学特論		2	丸山
		家族支援看護学特論		2	塩飽
	放射線技術科学コース	医用情報技術科学セミナーⅠ		2	町田
		医用情報技術科学セミナーⅡ		2	町田
		生体応用技術科学セミナーⅠ		2	植田
		生体応用技術科学セミナーⅡ		2	植田
		医用情報技術科学特論		2	町田
		生体応用技術科学特論		2	植田
	検査技術科学コース	基礎検査医科学セミナーⅠ		2	高橋（和）
		基礎検査医科学セミナーⅡ		2	高橋（和）
		臨床検査医科学セミナーⅠ		2	鈴木
		臨床検査医科学セミナーⅡ		2	鈴木
		検査医科学特論		2	高橋（和）

3.　教員一覧（2019 年 4 月現在）

【基礎・健康開発看護学領域】

看護アセスメント学

教授　丸山良子　（看護師・保健師、博士（医学））
講師　菅野恵美　（看護師・保健師、博士（医学））
助教　丹野寛大　（看護師・保健師、博士（医科学））

看護管理学

教授　朝倉京子　（看護師・保健師、博士（看護学））
助手　杉山祥子　（看護師・保健師、修士（看護学））

老年・在宅看護学

教授　尾崎章子　（看護師・保健師、博士（看護学））
助教　安藤千晶　（看護師・保健師、博士（看護学））
助教　清水恵　（看護師・保健師、博士（看護学））

地域ケアシステム看護学

教授(兼) 大森純子　（看護師・保健師、博士（看護学））
講師　津野陽子　（看護師・保健師、博士（看護学））
助手　松永篤志　（看護師・保健師、修士（保健学））

公衆衛生看護学

教授　大森純子　（看護師・保健師、博士（看護学））
助教　田口敦子　（看護師・保健師、博士（医学））
助手　竹田香織　（修士（法学））

地域保健学

教授(兼) 大森純子　（看護師・保健師、博士（看護学））
講師　Cindy H Chiu （博士）

【家族支援看護学領域】

成人看護学

教授　今谷晃　（医師、博士（医学））
講師　菊地史子　（看護師、博士（障害科学））

がん看護学

教授　佐藤冨美子　（看護師・保健師、博士（看護学））
講師　佐藤菜保子　（看護師、博士（医学））
助手　千葉詩織　（看護師・修士（看護学））

緩和ケア看護学

教授　宮下光令　（看護師・保健師、博士（保健学））
助教　青山真帆　（看護師・保健師、助産師、博士（保健学））

小児看護学

教授　塩飽仁　（看護師・保健師、博士（医学））
助教　入江亘　（看護師・保健師、博士（看護学））
助手　菅原明子　（看護師・修士（看護学））　※東北大学病院助手と兼務

精神看護学

教授　吉井初美　（看護師・精神保健福祉士、博士（医学））

助教　　光永憲香　　（看護師・保健師、修士（看護学））
助教　　小林奈津子　（医師・保健師、博士（医学））

ウィメンズヘルス・周産期看護学

(※2018 年 11 月～周産期看護学・ウィメンズヘルス看護学が統合)

教授　　吉沢豊予子　（看護師・助産師、博士（看護学））
准教授　中村康香　　（看護師・助産師・保健師、博士（看護学））
准教授　吉田美香子　（看護師・助産師・保健師、博士（保健学））
助教　　武石陽子　　（看護師・助産師・保健師、博士（看護学））

※学位の記載形式は、「学位（専攻分野）」で統一した
（例えば、実際に授与された学位は「博士（医学）」ではなく「医学博士」である場合がある）

4.　各種データ

4-1.　学部入試情報

【一般入試倍率・入学率】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 16 年度入学試験（前期）	50	130	2.6 倍	54	51
平成 16 年度入学試験（後期）	20	140	7.0 倍	20 (1)	18
平成 17 年度入学試験（前期）	50	120	2.4 倍	56	53
平成 17 年度入学試験（後期）	20	110	5.5 倍	22	19
平成 18 年度入学試験（前期）	50	91	1.8 倍	56	51
平成 18 年度入学試験（後期）	20	108	5.4 倍	24 (2)	19
平成 19 年度入学試験（前期）	50	111	2.2 倍	56	52
平成 19 年度入学試験（後期）	20	88	4.4 倍	25 (1)	17
平成 20 年度入学試験	55	114	2.1 倍	56	53
平成 21 年度入学試験	55	123	2.2 倍	57	54
平成 22 年度入学試験	55	167	3.0 倍	56	52
平成 23 年度入学試験	55	156	2.8 倍	58	57
平成 24 年度入学試験	55	140	2.5 倍	56	53
平成 25 年度入学試験	55	134	2.4 倍	58	52
平成 26 年度入学試験	55	123	2.2 倍	60	55
平成 27 年度入学試験	55	153	2.8 倍	60	53
平成 28 年度入学試験	54	126	2.3 倍	58	55
平成 29 年度入学試験	54	138	2.6 倍	58	56
平成 30 年度入学試験	50	147	2.9 倍	53	51
平成 31 年度入学試験	50	118	2.4 倍	52	50

※「合格者」は追加合格者の人数を含まない、（　）内は追加合格者の人数を示す

【AO 入試倍率・入学率】

＜AOIII期＞

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 20 年度入学試験（AO）	15	55	3.7 倍	19	19
平成 21 年度入学試験（AO）	15	43	2.9 倍	17	17
平成 22 年度入学試験（AO）	15	54	3.6 倍	20	20
平成 23 年度入学試験（AO）	15	49	3.3 倍	17	17
平成 24 年度入学試験（AO）	15	57	3.8 倍	15	15
平成 25 年度入学試験（AO）	15	35	2.3 倍	16	16
平成 26 年度入学試験（AO）	15	34	2.3 倍	15	15
平成 27 年度入学試験（AO）	15	40	2.7 倍	16	16
平成 28 年度入学試験（AO）	16	35	2.2 倍	17	17
平成 29 年度入学試験（AO）	16	30	1.9 倍	16	16
平成 30 年度入学試験（AOIII）	10	26	2.6 倍	10	10
平成 31 年度入学試験（AOⅢ）	10	24	2.4 倍	10	10

＜AOII期＞ ※平成 30 年度入学試験より開始

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 30 年度入学試験（AOII）	10	34	3.4 倍	10	10
平成 31 年度入学試験（AOⅡ）	10	34	3.4 倍	11	11

4-2.　大学院入試情報

【修士課程入試倍率・入学者数（看護学専攻のみ）】

					入学者		
	募集人員	志願者	倍率	合格者	全体	保健師選択	専門看護師コース
平成 20 年度入学試験	24	21	0.9 倍	17	17	—	1
平成 21 年度入学試験	24	13	0.5 倍	11	10	—	3
平成 22 年度入学試験	24	21	0.9 倍	16	14	—	3
平成 23 年度入学試験	24	15	0.6 倍	13	13	—	5
平成 24 年度入学試験	24	13	0.5 倍	12	11	—	3
平成 25 年度入学試験	24	11	0.5 倍	9	9	—	2
平成 26 年度入学試験	24	15	0.6 倍	11	11	1	4
平成 27 年度入学試験	24	22	0.9 倍	19	18	1	6
平成 28 年度入学試験	24	23	1.0 倍	13	13	5	1
平成 29 年度入学試験	24	19	0.8 倍	14	14	6	4
平成 30 年度入学試験	24	14	0.6 倍	12	12	2	3
平成 31 年度入学試験	24	15	0.6 倍	11	11	5	4

※ 募集人員は、保健学専攻 3 コース（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）全体での人数

※ 倍率は、保健学専攻 3 コース全体での募集人員に対する看護学コース志願者の比

【博士課程入試倍率・入学者数（看護学専攻のみ）】

	募集人員	志願者	倍率	合格者	入学者
平成 22 年度入学試験	10	4	0.4 倍	4	4
平成 23 年度入学試験	10	5	0.5 倍	4	4
平成 24 年度入学試験	10	9	0.9 倍	7	7
平成 25 年度入学試験	10	12	1.2 倍	10	8
平成 26 年度入学試験	10	6	0.6 倍	4	3
平成 27 年度入学試験	10	13	1.3 倍	10	10
平成 28 年度入学試験	10	9	0.9 倍	7	7
平成 29 年度入学試験	10	10	1.0 倍	9	9
平成 30 年度入学試験	10	14	1.4 倍	9	9
平成 31 年度入学試験	10	6	0.6 倍	6	6

※ 募集人員は、保健学専攻 3 コース（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）全体での人数

※ 倍率は、保健学専攻 3 コース全体での募集人員に対する看護学コース志願者の比

4-3.　学部卒業後の進路

【国家試験受験資格取得状況（新卒者）】

	保健師	助産師	看護師
平成 19 年度卒業	73	20	63
平成 20 年度卒業	76	15	66
平成 21 年度卒業	73	15	63
平成 22 年度卒業	80	16	70
平成 23 年度卒業	69	13	66
平成 24 年度卒業	73	15	71
平成 25 年度卒業	69	13	69
平成 26 年度卒業	76	13	76
平成 27 年度卒業	―	13	64
平成 28 年度卒業	―	13	64
平成 29 年度卒業	―	9	68
平成 30 年度卒業	―	12	68

※ 助産師コースは選抜制

【国家試験合格状況（新卒者+既卒者）】

	保健師			助産師			看護師		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
平成 19 年度施行	73	69	95%	20	19	95%	64	63	98%
平成 20 年度施行	77	77	100%	16	16	100%	67	65	97%
平成 21 年度施行	73	68	93%	15	8	53%	63	63	100%
平成 22 年度施行	81	79	98%	19	19	100%	70	70	100%
平成 23 年度施行	73	70	96%	13	13	100%	66	66	100%
平成 24 年度施行	75	74	99%	16	15	94%	71	68	96%
平成 25 年度施行	70	67	96%	14	12	86%	72	72	100%
平成 26 年度施行	78	78	100%	14	14	100％	76	75	99％
平成 27 年度施行	―	―	―	13	13	100%	66	65	99%
平成 28 年度施行	―	―	―	13	13	100％	66	65	99％
平成 29 年度施行	―	―	―	10	10	100%	69	69	100%
平成 30 年度施行	–	–	–	12	12	100%	68	67	99%

【学部卒業後の進路】

		就職				進学		
	卒業数	看護師	助産師	保健師	一般職	大学院	各種学校・大学等	その他
平成 19 年度卒業	73	35	14 (1)	8	1	8 (1)	5	3
平成 20 年度卒業	76	38	9	14	2	6	5	2
平成 21 年度卒業	73	45 (1)	8 (1)	8 (1)	2	9 (1)	2	1
平成 22 年度卒業	80	62 (11)	15 (11)	6	0	4	3	1
平成 23 年度卒業	69	44 (4)	12 (4)	12	1	1	1	2
平成 24 年度卒業	73	49 (3)	12 (3)	5	1	7	1	1
平成 25 年度卒業	69	42 (1)	11 (1)	9	0	8	0	0
平成 26 年度卒業	76	49	9	10	1	5	2	0
平成 27 年度卒業	65	40	10	—	0	10	2	3
平成 28 年度卒業	67	46	12	—	—	6	2	1
平成 29 年度卒業	68	52	9	—	—	6	1	0
平成 30 年度卒業	68	44	11	—	3	6	3	1

※（　）は、重複してカウントした人数

4-4.　大学院修了後の進路

【修士課程】

	学位取得	博士課程進学	大学教員	看護学校教員	看護師・助産師	保健師	その他
平成 21 年度修了	8	1	1	0	5	0	1
平成 22 年度修了	10	1	1	0	6	2	0
平成 23 年度修了	13	2 (1)	2 (1)	1	6	2	1
平成 24 年度修了	16	2	0	0	11	1	2
平成 25 年度修了	9	2	0	0	6	0	1
平成 26 年度修了	11	0	2	0	7	0	1
平成 27 年度修了	11	2(1)	2(1)	0	6	2	0
平成 28 年度修了	19	2(2)	4(1)	0	11(1)	3	0
平成 29 年度修了	12	1	0	0	5	5	1
平成 30 年度修了	11	1	0	0	2	6	2

※（　）は、重複してカウントした数

※ 社会人院生であった学生が博士課程に進学後も仕事を継続した場合は、就職者には含まなかった

【専門看護師取得状況】（認定数は 2017 年 3 月現在）

	がん看護専門看護師		小児看護専門看護師	
	修了数	認定数	修了数	認定数
平成 21 年度修了	0	―	―	―
平成 22 年度修了	2	2 (100%)	―	―
平成 23 年度修了	1	0 (0%)	―	―
平成 24 年度修了	2	2 (100%)	6	4 (67%)
平成 25 年度修了	2	2 (100%)	1	1 (100%)
平成 26 年度修了	0	―	2	2(100%)
平成 27 年度修了	2	2(100%)	2	1(50%)
平成 28 年度修了	3	3(100%)	2	2(100%)
平成 29 年度修了	0	―	1	0(0%)
平成 30 年度修了	0	―	1	1(100%)

※「修了者」は、専門看護師認定審査の受験資格を有する修了者の人数

※「認定数」は、専門看護師の認定審査に合格したものの人数

※ 専門看護師認定審査の有資格者のなかには、専門看護師の認定を希望しない者も含まれる

【博士課程】

		教育機関・研究機関				
	学位取得	大学教員	その他	看護師・助産師	保健師	その他
平成 24 年度修了	0	―	―	―	―	―
平成 25 年度修了	2	1	1	0	0	0
平成 26 年度修了	4	3	0	0	0	1
平成 27 年度修了	4	3	0	1	0	0
平成 28 年度修了	4	1	2	1	0	0
平成 29 年度修了	3	1	0	1	0	1
平成 30 年度修了	6	5	0	1	0	0

4-5. 大学院修了者の学位論文一覧 (2016 年度修了者まで)

【修士課程】

平成 21 年度（2009 年度）

・ 鎌田美千代. 看護師の与薬業務における医療情報と医療行為の乖離の分析.（平野かよ子教授）
・ 河村真人. 長野県佐久地域の 2008/09 シーズンにおける季節性インフルエンザ流行時での医療機関受診の検討.（丸山良子教授）
・ 佐々木康之輔. Evaluation of respiratory pattern on human heart rate variability（心拍変動における呼吸の評価）.（丸山良子教授）
・ 庄司香織. エストロゲンと加齢が自律神経活動の調節に及ぼす影響.（丸山良子教授）
・ 関智示. 褥婦に出現する産褥早期の下肢浮腫の経時的変化と弾性ストッキングの効果に関する検討.（吉沢豊子教授）
・ 武石陽子. 妊娠期の快適性に関する尺度の開発.（吉沢豊子教授）
・ 武田晶子. 子どもの病気のイメージと「自分の病気について知ること」の意識および保護者の意識の実態とそれらの関連.（塩飽仁教授）
・ 松井憲子. 敗血症と全身性炎症反応症候群患者の自律神経活動の変化について.（丸山良子教授）

平成 22 年度（2010 年度）

・ 青木咲奈枝. がん患者の外来放射線治療による有害事象の苦痛度とクオリティ・オブ・ライフの関連.（佐藤冨美子教授）
・ 伊藤加奈子. 中堅保健師の OJT と実践コミュニティに関する研究.（末永カツ子教授）
・ 桂田かおり. 死産・新生児死亡を経験した父親の「子どもの死の実感プロセス」.（佐藤喜根子教授）
・ 鎌倉美穂. 貯血式自己血採血をモデルとした循環血液量減少が循環動態と自律神経活動に及ぼす影響.（丸山良子教授）
・ 坂村佐知. 妊娠先行型結婚夫婦の関係性が養育環境に及ぼす影響－早産児を出産した女性を対象にして－.（吉沢豊子教授）
・ 佐々木理衣. 初発乳がん術後補助化学療法を受ける患者の気がかりとソーシャル・サポートの関連.（佐藤冨美子教授）
・ 千葉春香. 出生体重が循環動態と自律神経活動に及ぼす影響.（丸山良子教授）
・ 永井瑞希. 女子長距離選手における月経異常が自律神経系・心血管系・運動パフォーマンスに及ぼす影響.（丸山良子教授）
・ 芳賀麻有. 睡眠時姿勢特性と自律神経活動および呼吸機能との関連性の検討.（丸山良子教授）
・ 平尾由美子. 在宅療養高齢者の足爪白癬の罹患状況、管理の実態、および QOL への影響に関する研究.（川原礼子教授）

平成 23 年度（2011 年度）

・ 荒屋敷純子. 東日本大震災発生から一週間の看護職の労働実態～性別・婚姻が災害時の労働に与えた影響～.（吉沢豊子教授）
・ 井上芙蓉子. がん診療に携わる看護師の緩和ケアに関する知識・困難感・実践の実態と関連要因－日本の４地域全体を対象とした多施設調査－.（宮下光令教授）

・ 岡野恵. 小児病棟に勤務するチャイルドライフスペシャリストの役割と機能に関する研究～子ども中心の医療を推進するスペシャリストとは～.（平野かよ子教授）
・ 菊池綾子. 第２子誕生後２か月経過した男性の家族に対する意識.（佐藤喜根子教授）
・ 熊谷賀代. 正常新生児の生後１か月までの体重増減量と完全母乳育児継続の関連要因の明確化.（吉沢豊子教授）
・ 小松恵. 高齢者の看取りにおいて、訪問看護師が「よい」あるいは「心残り」と感じた背景の研究.（川原礼子教授）
・ 佐々木久美子. 産業看護職における CSR（企業の社会的責任）の認識プロセス.（末永カツ子教授）
・ 品川優理. 乳癌患者に対する喫煙の影響－乳癌細胞株とタバコ煙抽出物を用いた検討－.（丸山良子教授）
・ 高橋奈津子. 介護老人保健施設に入所している高齢者の下肢浮腫に関する調査—加齢、日常生活における影響因子、および利尿薬との関連性について—.（川原礼子教授）
・ 竹内真帆. Changes in the lower limb of patients before and after Gynecologic surgery including LND: implication for early lymphedema assessment（婦人科リンパ節廓清術後の下肢の変化—続発性リンパ浮腫の早期発見に向けて—）.（吉沢豊子教授）
・ 丹治史也. Personality and All－cause, Cause－specific Mortality in Japan: the Miyagi Cohort Study（パーソナリティと全死因、死因別死亡リスクに関する前向きコホート研究）.（南優子教授）
・ 成沢香織. 外来で分子標的治療を受けているがん患者の症状体験と QOL の関連.（佐藤冨美子教授）
・ 藪田歩. 統合失調症をもつ患者の家族心理教育の効果.（齋藤秀光教授）

平成 24 年度（2012 年度）

・ 五十嵐美幸. がん患者の死亡場所に関連する要因　死亡票情報を用いた分析と都道府県別医療社会的指標を用いた分析.（川原礼子教授）
・ 石川涼. 知的障害を伴わない発達障害をもつ子どもの発見から就学における関係者の役割および連携に関する実態調査.（塩飽仁教授）
・ 烏日古木拉. 出生体重が血圧および自律神経活動に及ぼす影響　モンゴル族の若年成人を対象にした検証.（丸山良子教授）
・ 菅野雄介. 看護師による看取りのケアの質の評価尺度の信頼性・妥当性と関連要因の探索.（宮下光令教授）
・ 菊池笑加. 震災前後に子どもが誕生した父親の生活と心身の健康状態　－東日本大震災から１年４か月後の調査－.（佐藤喜根子教授）
・ 日下由利子. 看護師と患児および保護者が認識する病名と病状説明時における看護師の対応についての実態調査.（塩飽仁教授）
・ 佐山恭子. 入院した子どものきょうだいと母親が評価するきょうだい自身の人格的成長に関する調査研究.（塩飽仁教授）
・ 関貴子. 喫煙と肺がん罹患リスクに関する組織型別症例対照研究.（南優子教授）
・ 高田望. 看護師の「集中治療室における積極的治療から看取りの医療」への意思決定参画に関する基礎的研究.（平野かよ子教授）
・ 千葉みゆき. 化学療法を受ける転移再発大腸がん患者の心理的適応に関連する要因の検討.（佐藤冨美子教授）

・ 名古屋祐子. 遺族と医療者への面接から得られた看取りの時期にある小児がんの子どもと家族に必要な要素.（塩飽仁教授）
・ 納谷さくら. がん患者のオピオイドに対する懸念と疼痛コントロールの関連.（佐藤冨美子教授）
・ 真溪淳子. アクションラーニングによる地域看護管理者研修の意義.（末永カツ子教授）
・ 三谷綾子. 青年期以降の胆道閉鎖症患者の QOL とレジリエンスの特徴に関する調査研究.（塩飽仁教授）
・ 門間典子. 大学病院に勤務する中高年看護師の仕事継続要因の分析.（平野かよ子教授）
・ 谷地舘千恵. 看護師が認識する子どものターミナルケアについてのインタビュー調査.（塩飽仁教授）

平成 25 年度（2013 年度）

・ 菅野喜久子. 東日本大震災の被災沿岸地域の医療者へのインタビュー調査に基づく災害時におけるがん緩和ケア・在宅医療の在り方に関する研究.（宮下光令教授）
・ 木村智一. 児童養護施設の福祉職, 施設長, 看護師がとらえている児童養護施設の看護師の現状と役割の実態調査.（塩飽仁教授）
・ 日下裕子. リンパ浮腫発症の可能性に直面した時に感じる不本意さと不確かさ—婦人科がんサバイバーの経験から—.（吉沢豊子教授）
・ 下條祐也. 妻・母親役割を担う看護職の職業継続意思に影響する要因の検討—両立支援的組織風土に注目して—.（朝倉京子教授）
・ 長坂沙紀. 高機能広汎性発達障害当事者がセルフアドボカシー活動を行うまでの体験.（末永カツ子教授）
・ 包薩日娜. Effect of low birth weight on inflammation biomarkers and autonomic function in healthy young adults（若年健常者における出生体重が炎症性マーカーおよび自律神経機能に及ぼす影響）.（丸山良子教授）
・ 本田涼. 第２子が NICU に入院した母親の第１子への思いと対応.（佐藤喜根子教授）
・ 三滝亜弥. 産業看護職が体験するリアリティショックと対処に関する研究.（末永カツ子教授）
・ 横田則子. 外来で化学療法を受けるがん患者の埋め込み型中心静脈ポート留置部位と生活の支障との関連.（佐藤冨美子教授）

平成 26 年度（2014 年度）

・ 岩淵正博. 終末期医療に関する意思決定者の実態と受ける医療や Quality of Life への影響.（宮下光令教授）
・ 熊谷清美. メキシコにおける妊婦と子育て中の母親の愛着—接触行動との関連—.（佐藤喜根子教授）
・ 坂田あゆみ. 産後 4 カ月の母親のソーシャルサポートに対する認識-被災地域の子育て環境から-.（佐藤喜根子教授）
・ 佐藤遥. 側臥位と自律神経活動および循環動態の性差について.（丸山良子教授）
・ 鈴木千鶴. 食物アレルギーの子どもをもつ母親の困難感と対処行動.（塩飽仁教授）
・ 髙橋恵美子. 東日本大震災が不妊に悩む女性に及ぼした影響—ART を受けている女性の現状—.（佐藤喜根子教授）
・ 長橋美榮子. 看護師免許を有する養護教諭と有しない養護教諭における業務上の困難感に関する研究.（齋藤秀光教授）

・ 三浦恵美. 看護師長が認識する successful な部署運営に関する研究.（朝倉京子教授）
・ 柳本千景. 外来化学療法を受けているがん患者の倦怠感マネジメントバリアに影響する要因の検討.（佐藤冨美子教授）
・ 吉田明莉. 無侵襲的出生前遺伝学的検査（NIPT）受検者が妊娠中に抱いた思い.（吉沢豊子教授）
・ 横山千恵. 特別支援学校に勤務する看護師が役割を遂行するために必要な要素.（塩飽仁教授）

平成 27 年度（2015 年度）

・菊池尚子. 切迫早産妊婦の安静治療による母児アウトカムへの影響. (吉沢豊子教授)
・杉山育子. 原発性悪性脳腫瘍患者における終末期ケアの質の評価：ホスピス・緩和ケア病棟での多施設遺族調査（宮下光令教授）
・杉山祥子. 看護師の自律的な臨床判断が磨かれるありよう（朝倉京子教授）
・青砥恵美. 東北地方における看護師が実施する認知行動療法の実態に関する研究（斎藤秀光教授）
・入江亘. 小児がんの子どもの親が Posttraumatic Growth に至るプロセス（塩飽仁教授）
・和田彩. 就労妊婦の特性と妊娠アウトカムとの関連—内的特性に着目して—（吉沢豊子教授）
・佐藤恵. 帝王切開術で出産した女性の出産体験のとらえ方とそれに影響する要因—経腟分娩との比較（佐藤喜根子教授）
・重野朋子. 宮城県内のがん診療連携拠点病院におけるがん疼痛に関する多施設調査—施設間差と疼痛緩和が不十分な患者への対応の検討—（宮下光令教授）
・菅原明子. 健康問題を持つ子供に対して看護師が実践している心理的ケアのプロセス（塩飽仁教授）
・瀧澤洋子. Alcohol intake and breast cancer risk according to menopausal and hormone receptor status in Japanese women(日本人女性における飲酒と閉経状況・ホルモン受容体別乳がんリスクとの関連)（南優子教授）
・根本裕美子. 東京電力福島第一原子力発電所事故における安定ヨウ素剤の国，県，市町村の対応の実際と今後の備え（末永カツ子教授）

平成 28 年度（2016 年度）

・ 小野八千代. 中高年の女性看護師が職業を継続するために困難を乗り越えるプロセス（朝倉京子教授）
・ 亀井ひとみ. "看護師が後輩看護師を育成する態度の形成プロセス—中期キャリアにある看護師に注目して—"（朝倉京子教授）
・ 橋本恵子. 若年女性労働者の困難から回復する力（レジリエンス）と心の健康の実態調査（齋藤秀光教授）
・ 安部葉子. "助産師が捉えた特別養子縁組を選択し出産した女性－女性の理解と助産師の気持ちに焦点を当てて－"（佐藤喜根子教授）
・ 五十嵐尚子. がん患者の遺族における複雑性悲嘆のスクリーニング尺度である Brief Greif Questionnaire (BGQ)と Inventory of Complicated Grief(ICG)の比較（宮下光令教授）
・ 原ゆかり. 看護職の専門職的自律性に対する態度と職業コミットメントの経年変化が離職意向に及ぼす影響の検討（朝倉京子教授）

・ 及川真紀. 性・年齢階級別にみた家族との同居状況と心理的苦痛の関連：東北メディカル・メガバンク事業地域住民コホート調査（佐藤喜根子教授）
・ 大泉千賀子. 治療期膵癌患者の家族が認知する患者の症状・治療及び療養状況と家族の QOL（佐藤冨美子教授）
・ 押切美佳. 臨床看護師の調査からみた小児集中治療室の看護の特徴と展望（塩飽仁教授）
・ 川尻舞衣子. 妊娠期における身体活動量の縦断的調査-リストバンド型三軸加速度計を用いて-（吉沢豊子教授）
・ 後藤清香. 小児がん患者の標準復学支援要領の試作と実行可能性の検証（塩飽仁教授）
・ 齊藤恵里子. "多職種協働による自発的な母子支援活動の効果　ー震災を契機に立ち上がった子育てサロン活動からー"（佐藤喜根子教授）
・ 高橋紀子. がんの痛みの看護ケア実践尺度の開発と信頼性・妥当性の検討（宮下光令教授）
・ 千葉詩織. 進行がん患者のオピオイド服薬マネジメントと疼痛の関連（佐藤冨美子教授）
・ 富澤あゆみ. 在宅療養支援診療所を利用する終末期がん患者の主介護者の介護負担感に関連する要因の検討（佐藤冨美子教授）
・ 樋渡麻衣. "東日本大震災年に誕生した子を持つ父親の震災 5 年目の心身の健康状態と影響を及ぼした要因"（佐藤喜根子教授）
・ 柳澤萌美. "東日本大震災における 5 年間の心のケアニーズの変化―支援者から捉えた住まうことに関連する心のケアニーズの変化パターン―"（大森純子教授）
・ 吉澤彩. 看護拠点を立ち上げた看護師による地域におけるケアの特徴（大森純子教授）
・ 吉田薫. がん家族歴と肺がん罹患リスクに関する組織型別症例対照研究（大森純子教授）

平成 29 年度（2017 年度）

・ 成田愛. 看護実践環境が看護師の能力開発に及ぼす影響に関する研究. （朝倉京子教授）
・ 清水香織. 1 型糖尿病をもつ学童前期児童の病気の理解と療養行動及び病気をもつ自分への思い. （塩飽仁教授）
・ 青木亜紀. 子どもの入院に付き添う母親の付き添い状況とストレス反応との関連. （吉沢豊子教授）
・ 井上史子. 地域の支援者が捉える認知症高齢者の家族介護者が抱くスティグマ. （大森純子教授）
・ 熊谷知華. 難病ピアサポーター養成プログラムの作成. （大森純子教授）
・ 佐藤日菜. 保育士による発達上「気になる子」の保護者への支援の実態と関連要因の探索. （大森純子教授）
・ 高嶋里会. 就労妊婦の職務ストレスと妊娠アウトカムとの関連. （吉沢豊子教授）
・ 星純子. 音楽聴取が自律神経活動と循環動態に及ぼす影響ーモーツァルト K448 とバッハ BWV1049 の比較ー. （丸山良子教授）
・ 望月瑞希. 青年期男性における被養育経験と愛着スタイルが育児準備状態に及ぼす影響. （吉沢豊子教授）
・ 山崎菜穂子. 民生委員がとらえたセルフ・ネグレクトの徴候. （大森純子教授）

・ 楊紅霞. 若年健康成人の日常生活における身体活動量が心拍数、血圧および自律神経活動に及ぼす影響. （丸山良子教授）
・ 和山郁美. 大学生集団における過剰飲酒を助長する要素・抑制する要素とその相互関係. （大森純子教授）

平成 30 年度（2018 年度）

・ キビラ ジェマイマ ニャウィラ. Knowledge and Practice of Cancer Pain Management; A Regional Survey of Kenyan Nurses./ ケニアにおける看護師のがん性疼痛マネジメントに関する知識と実践について. （宮下光令教授）
・ 千田絵美. 子どものいない女性看護師が妊娠期あるいは育児期にある看護師と共に働くことに折り合いをつけようとするプロセス. （朝倉京子教授）
・ 伊藤海. 農業地域における生活支援の担い手となる意向を持つ高齢者の特性の検討. （大森純子教授）
・ 佐藤あかり. 産後 4 ヶ月間の母親が心理的葛藤を経て自分なりの生活リズムの獲得に向かう過程における心理状態とその変化への影響要因. （大森純子教授）
・ 佐藤ひかり. 認知症の人に対する態度の概念分析 -ハイブリッドモデルを用いて-. （大森純子教授）
・ 島村紗綾. 中高生におけるヘルスリテラシーと生活習慣および関連要因の検討. （大森純子教授）
・ 菅野史夏. 入院を繰り返す統合失調症患者の入院に至る経緯の明確化―大学病院の診療記録をもとにした分析―. （大森純子教授）
・ 橘ゆり. 医療的ケアが必要な在宅重症心身障害児を亡くした家族の体験と子供および家族への支援. （塩飽仁教授）
・ 継田浩之. 終末期がん患者の悪心嘔吐に対する指圧の実施可能性・安全性に関する検討. （宮下光令教授）
・ 升川研人. 望ましい死の達成度尺度 Good Death Inventory は全般的な Good Death をどの程度捉えることができているのか？-全国多施設遺族調査より-. （佐藤冨美子教授）
・ 劔持麻美. 父子家庭の父親の精神的健康と影響する要因の探索. （大森純子教授）

【博士課程】

平成 25 年度（2013 年度）

・ 有永洋子. アロマセラピーと簡易エクササイズを用いたセルフケアプログラムによる乳がん治療関連リンパ浮腫管理に関する研究（佐藤冨美子教授）
・ 清水恵. 受療行動調査におけるがん患者の療養生活の質の評価のための項目の適切性に関する研究（宮下光令教授）

平成 26 年度（2014 年度）

・ 阿部亜希子. 災害をきっかけとした保健師の創発的活動に関する研究―東日本大震災時の保健師活動の分析を通して―.（佐藤喜根子教授）

・ 佐々木康之輔. 健常成人における左右側臥位時の心臓自律神経活動および循環動態の変化に関する基礎的検討.（丸山良子教授）
・ 佐藤眞理. エスノグラフィの分析を通して見えてくる被災した町の保健師の経験.（吉沢豊子教授）
・ 高橋葉子. 東日本大震災後における被災地看護師のメンタルヘルス—職場の被災による影響—. （齋藤秀光教授）

平成 27 年度（2015 年度）

・井上由紀子. 病気や障害をもつ子供と養育者の意思尊重支援の現状と支援ツールの作成および支援ツールを活用した看護実践の有用性とその検証（塩飽仁教授）
・青山真帆. がん患者遺族の悲嘆・抑うつ・睡眠状態・飲酒行動の実態と関連要因（宮下光令教授）
・佐藤大介. 前立腺がん患者の術後合併症の増悪予防と QOL 向上を目的とした遠隔看護システムの効果（佐藤冨美子教授）
・堀口雅美. 健康若年成人を対象とした食行動とストレス対処能力に関する研究（丸山良子教授）

平成 28 年度（2016 年度）

・ 鎌倉美穂. 循環血液量の増減に伴う心臓自律神経活動の変化と糖，脂質，炎症関連因子の影響－自己血採血と輸液療法をモデルとした検証－（丸山良子教授）
・ 菅野雄介. わが国の急性期病院における認知症の整備体制に関する研究（宮下光令教授）
・ 名古屋祐子. 看護師による終末期小児がん患者と家族の QOL 代理評価尺度の開発と QOL 評価（塩飽仁教授）
・ 包薩日娜. "Ethnic Differences in the Effects of Birth Weight on Current Inflammation Biomarkers and Autonomic Function in Healthy Young Mongolian and Japanese Adults（出生体重が若年健常者の炎症性マーカーと自律神経機能に及ぼす影響—モンゴル族、日本人における比較検討）"（丸山良子教授）

平成 29 年度（2017 年度）

・ 菊地圭子. 直接授乳時の乳児の吸着場面における母親の注視行動に関する基礎的研究. （吉沢豊子教授）
・ 大橋由基. 小規模商店街で働く人々における慣習に基づいた健康の捉え方のエスノグラフィー.（尾崎章子教授）
・ 武石陽子. コペアレンティングを促す妊娠期の介入プログラムの開発－第一子妊娠中の日本人夫婦に焦点を当ててー.（吉沢豊子教授）

平成 30 年度（2018 年度）

・ 山口典子. 無精子症の診断を受け MD-TESE・TESE を選択した男性にとっての子どもの意味. （吉沢豊子教授）
・ 高田望. 看護の専門職性に対する態度尺度（Attitude toward Nursing Professionalism Scale ; ANPS）の開発および信頼性と妥当性の検討.（朝倉京子教授）
・ 森田誠子. 行政保健師の裁量行使の過程に関する理論の構築. （大森純子教授）
・ 入江亘. 白血病の子供をもつ親が心的外傷後にがんとの間合いをとれるようになるプロセスの解明.（塩飽仁教授）

- 清水陽一. 緩和ケア病棟に入院中の終末期がん患者の家族介護者のレジリエンスと精神的健康に関する研究. （宮下光令教授）
- 霜山真. 非侵襲的陽圧換気療法を受けている慢性呼吸不全患者の増悪軽減を目的とした遠隔看護介入プログラムの効果―無作為化比較試験―. （佐藤冨美子教授）

4-6.　業績数の推移　　(2018 年 12 月現在)

【業績数の推移】

	原著論文・総説（査読あり）		原著論文・総説（査読なし）、紀要、解説	著書	国際学会発表	国内学会発表
	英文論文	和文論文				
平成 20 年（2008 年）	4	11	20	9	3	44
平成 21 年（2009 年）	7	6	13	6	8	56
平成 22 年（2010 年）	20	11	23	6	17	114
平成 23 年（2011 年）	17	14	24	10	10	84
平成 24 年（2012 年）	30	22	17	9	22	89
平成 25 年（2013 年）	24	25	27	9	13	115
平成 26 年（2014 年）	29	16	30	16	19	112
平成 27 年（2015 年）	39	28	30	12	23	131
平成 28 年（2016 年）	56	19	30	13	24	122
平成 29 年（2017 年）	34	19	19	8	23	138
平成 30 年（2018 年）	39	15	23	8	19	141
合計	299	186	256	106	181	1146

※ 大学院が設置された 2008 年以降のもの

※ 教員・学生が保健学専攻に所属している期間中に発表された業績のみを数えた

※ 査読のない原著論文は「原著論文・総説（査読なし）、紀要、解説」に含めた

※ 重複カウントあり

【外部資金獲得の推移】

	新規研究費		継続研究費		その他外部資金
	主任研究	分担研究	主任研究	分担研究	
平成 20 年度（2008 年度）	11	6	4	2	0
平成 21 年度（2009 年度）	8	9	10	6	0
平成 22 年度（2010 年度）	11	7	11	14	3
平成 23 年度（2011 年度）	14	5	14	13	1
平成 24 年度（2012 年度）	20	13	19	11	3
平成 25 年度（2013 年度）	19	23	22	18	0
平成 26 年度（2014 年度）	9	5	24	30	0
平成 27 年度（2015 年度）	14	1	13	18	3
平成 28 年度（2016 年度）	20	8	14	10	0
平成 29 年度（2017 年度）	12	7	21	16	0
平成 30 年度（2018 年度）	12	8	15	15	1
合計	150	90	167	153	11

※ 大学院が設置された 2008 年 4 月以降のもの

※ 継続研究費は延数

5. 研究業績 （2018 年 1 月～2018 年 12 月）

5-1. 原著論文・総説（査読あり）

【看護アセスメント学分野】

1. Kanno E, Tanno H, Yamaguchi K, Sasaki A, Maruyama R, Tachi M. Experimental wound ischemia does not promote *Pseudomonas aeruginosa* biofilm formation. J Dermatol Dermatol Surge, 2018; 22: 68-71.
2. Toyama M, Kudo D, Aoyagi T, Miyasaka T, Ishiki, Kanno E, Kaku M, Kushimoto S, Kawakami K. Attenuated accumulation of Treg cells and reduced production of IL-10 lead to the exacerbation of tissue injury in a mouse model of ARDS. Microbiol Immunol, 2018, 62(2): 111-123.

【看護管理学分野】

3. Tominaga MT, Asakura K, Asakura T. Generation-Common and -Specific Factors in Intention to Leave among Female Hospital Nurses: A Cross-Sectional Study Using a Large Japanese Sample. International Journal of Environmental Research and Public Health; 2018; 15:1591.
4. Satoh M, Watanabe I, Asakura K. Determinants Strengthening Japanese Nurses' Intention to Stay at Their Current Hospital. The Tohoku journal of experimental medicine, 2018;246(3):175-182.

【公衆衛生看護学分野】

5. 小澤涼子, 吉田礼維子, 大森純子. 保健師が捉える第一次産業従事者にとっての健康. 日本公衆衛生看護学会誌. 2018;7(3):143-150.
6. 小林真朝, 麻原きよみ, 大森純子, 宮崎美砂子, 宮崎紀枝, 安齋由貴子, 小野若菜子, 三森寧子. 保健師養成機関における「公衆衛生看護の倫理」教育の実態. 日本公衆衛生雑誌. 2018;65(1):25-33.
7. 高橋和子, 大森純子, 田口敦子, 齋藤美華, 酒井太一, 三森寧子. 首都圏近郊都市部の向老期世代の“地域への愛着”に関連する要因. 公衆衛生看護学会誌. 2018;7(2):80-90.
8. 山縣千尋, 廣岡佳代, 菅野雄介, 田口敦子, 松本佐知子, 宮下光令, 深堀浩樹. 高齢者ケア施設におけるエンド・オブ・ライフケアの Integrated Care Pathway に関する介入・実装研究：スコーピングレビュー. Palliative Care Research. 2018;13(4):313-327.

【地域保健学分野】

9. Chiu C, Nakano K, Omor J. Workshop to promote patient-centered cross-cultural care among Japanese nursing students. Nursing English Nexus. 2018 Oct; 2(2), 6-12.
10. Nakano K, Nakamura Y, Shimizu A., Alamer M. Exploring roles and capacity development of village midwives in Sudanese communities. Rural and Remote Health. 2018 Oct; 18(4): 1-11.

【がん看護学分野】

11. Sato N, Hasegawa Y, Saito A, Motoi F, Ariake K, Katayose Y, Nakagawa K, Kawaguchi K, Fukudo S, Unno M, Sato F. Association between chronological depressive changes and psysical symptoms in postoperative pancreatic cancer patients. BioPsychoSocoal medicine 2018; 12: 13. doi: 10.1186/s13030-018-0132-1.
12. Sato N, Motoi F, Ariake K, Nakagawa K, Kawaguchi K, Sato M, Katayose Y, Sato F, Unno M. Chronological Evaluation of Postoperative Nutritional Status and Quality of Life of Pancreatic Cancer Patients. Pancreas. 2018; 47(6):783-784.

【緩和ケア看護学分野】

13. Morita T, Kiuchi D, Ikenaga M, Abo H, Maeda S, Aoyama M, Shinjo T, Kizawa Y, Tsuneto S, Miyashita M. Difference in opinions about continuous deep sedation among cancer patients, bereaved families, and physicians. J Pain Symptom Manage. 2018 Dec 5. pii: S0885-3924(18)31112-6. doi: 10.1016/j.jpainsymman.2018.11.025. [Epub ahead of print]
14. Sato Y, Miyashita M, Sato K, Fujimori K, Ishikawa KB, Horiguchi H, Fushimi K, Ishioka C. End-of-life care for cancer patients in Japanese acute care hospitals: A nationwide retrospective administrative database survey. Jpn J Clin Oncol. 2018 Oct 1;48(10):877-883.
15. Oishi T, Sato K, Morita T, Mack JW, Shimodaira H, Takahashi M, Takahashi S, Inoue A, Murakawa Y, Kawahara M, Ishioka C, Miyashita M. Patient perceptions of curability and physician-reported disclosures of incurability in Japanese patients with unresectable/recurrent cancer: a cross-sectional survey. Jpn J Clin Oncol. 2018 Oct 1;48(10):913-919.
16. Odagiri T, Morita T, Aoyama M, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M, J‐HOPE Group. Families' Sense of Abandonment When Patients Are Referred to Hospice. Oncologist. 2018 Sep;23(9):1109-1115.
17. Okamoto Y, Morita T, Tsuneto S, Aoyama M, Kizawa Y, Shima Y, Miyashita M. Bereaved Family Members' Perceptions of the Distressing Symptoms of Terminal Patients With Cancer. Am J Hosp Palliat Care. 2018 Jul;35(7):972-977.
18. Mori M, Morita T, Igarashi N, Shima Y, Miyashita M. Communication about the impending death of patients with cancer to the family: a nationwide survey. BMJ Support Palliat Care. 2018 Jun;8(2):221-228.
19. Masukawa K, Aoyama M, Morita T, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. The Japan hospice and palliative evaluation study 4: a cross-sectional questionnaire survey. BMC Palliat Care. 2018 Apr 20;17(1):66.
20. Ishida E, Onishi H, Morita T, Uchitomi Y, Shimizu M, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. Communication Disparity between Bereaved and Others: What Hurts Them and What is Unhelpful? - A Nationwide Study of the Cancer Bereaved. J Pain Symptom Manage. 2018 Apr; 55(4): 1061-7. e1.
21. 中里和弘, 塩崎麻里子, 平井啓, 森田達也, 多田羅竜平, 市原香織, 佐藤眞一, 清水恵, 恒藤暁, 志真泰夫 宮下光令. ホスピス・緩和ケア病棟における患者と家族間の思いの言語化を支える家族支援―遺族調査による家族支援と「患者と家族との良好な関係性」および「ケアの全般的満足度」との関連性の検討―. Palliat Care Res 2018; 13(3): 263-71.
22. 米永裕紀, 青山真帆, 森谷優香, 五十嵐尚子, 升川研人, 森田達也, 木澤義之, 恒藤暁, 志真泰夫, 宮下光令. 緩和ケア病棟のケアの質および遺族の悲嘆・うつの地域差：全国遺族調査の結果から. Palliat Care Res 2018; 13(3): 235-43.
23. 清水佐智子, 宮下光令, 藤澤大介, 藤森麻衣子, 高橋都. がんサバイバーの就業状況, 収入の変化に関する経験の実態とQOL・心の健康との関連. Palliat Care Res 2018; 13(3): 209-18.
24. 山縣千尋, 廣岡佳代, 菅野雄介, 田口敦子, 松本佐知子, 宮下光令, 深堀 浩樹, 高齢者ケア施設におけるエンド・オブ・ライフケアの Integrated Care Pathway に関する介入・実装研究：スコーピングレビュー, Palliative Care Research. 2018; 13(4): 313-27. doi: https://doi.org/10.2512/jspm.13.313
25. Aoyama M, Sakaguchi Y, Morita T, Ogawa A, Fujisawa D, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. Factors associated with possible complicated grief and major depressive disorders. Psychooncology. 2018 Mar; 27(3): 915-21.

26. Mori M, Yoshida S, Shiozaki M, Morita T, Baba M, Aoyama M, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. "What I Did for My Loved One Is More Important than Whether We Talked About Death": A Nationwide Survey of Bereaved Family Members. J Palliat Med. 2018 Mar;21(3):335-341.
27. Hatano Y, Morita T, Otani H, Igarashi N, Shima Y, Miyashita M. Physician Behavior toward Death Pronouncement in Palliative Care Units. J Palliat Med. 2018 Mar;21(3):368-372.
28. Arahata T, Miyashita M, Takenouchi S, Tamura K, Kizawa Y. Development of an Instrument for Evaluating Nurses' Knowledge and Attitude Toward End-of-Life Care: End-of-Life Nursing Education Consortium-Japan Core Quiz. J Hosp Palliat Nurs. 2018 Feb;20(1):55-62.
29. Nakazawa Y, Yamamoto R, Kato M, Miyashita M, Kizawa Y, Morita T. Improved knowledge of and difficulties in palliative care among physicians during 2008 and 2015 in Japan: Association with a nationwide palliative care education program. Cancer. 2018 Feb 1; 124(3): 626-35.
30. Miyashita M, Aoyama M, Yoshida S, Yamada Y, Abe M, Yanagihara K, Shirado A, Shutoh M, Okamoto Y, Hamano J, Miyamoto A, Nakahata M, Sato K, Morita T. The distress and benefit to bereaved family members of participating in a post-bereavement survey. Jpn J Clin Oncol. 2018 Feb 1; 48(2); 135-43.
31. Sakashita A, Morita T, Kishino M, Aoyama M, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. Which Research Questions Are Important for the Bereaved Families of Palliative Care Cancer Patients? A Nationwide Survey. J Pain Symptom Manage. 2018 Feb; 55(2): 379-86.
32. Nakazawa Y, Kato M, Miyashita M, Morita T, Kizawa Y. Changes in nurses' knowledge, difficulties, and self-reported practices toward palliative care for cancer patients in Japan: an analysis of two nationwide representative surveys in 2008 and 2015. J Pain Symptom Manage. 2018 Feb;55(2):402-412.
33. Sanjo M, Morita T, Miyashita M, Sato K, Kamibeppu K, Tsuneto S, Shima Y. Are Bereaved Family Members Satisfied With Information Provision About Palliative Care Units in Japan? Am J Hosp Palliat Med. 2018 Feb; 35(2): 275-283.
34. Hamano J, Morita T, Mori M, Igarashi N, Shima Y, Miyashita M. Prevalence and predictors of conflict in the families of patients with advanced cancer: A nationwide survey of bereaved family members. Psychooncology. 2018 Jan; 27(1): 302-8.
35. Hirooka K, Otani H, Morita T, Miura T, Fukahori H, Aoyama M, Kizawa Y, Shima Y, Tsuneto S, Miyashita M. End-of-life experiences of family caregivers of deceased patients with cancer: A nation-wide survey. Psychooncology. 2018 Jan; 27(1): 272-8.
36. Mori M, Kuwama Y, Ashikaga T, Parsons HA, Miyashita M. Acculturation and Perceptions of a Good Death Among Japanese Americans and Japanese Living in the U.S. J Pain Symptom Manage. 2018 Jan;55(1):31-38.

【小児看護学分野】

37. Irie W, Shiwaku H, Taku K, Suzuki Y, Inoue Y. Roles of Reexamination of Core Beliefs and Rumination in Posttraumatic Growth Among Parents of Children With Cancer: Comparisons With Parents of Children With Chronic Disease. Cancer Nurs. 2019.
38. 入江 亘，名古屋祐子，羽鳥裕子，吉田沙蘭，尾形明子，松岡真里，多田羅竜平，永山 淳，宮下光令，塩飽 仁. 看取りの時期にある小児がんの子どもをもつ家族向けパンフレット「これからの過ごしかたについて-子ども版-」の小児がんに携わる医療者の意見による使用可能性の検討. Palliative Care Research 2018;13(4):383-391.
39. 入江 亘，塩飽 仁，名古屋祐子. 小児がんを経験した子どもの親の心的外傷後成長を構成する要

素－慢性疾患をもつ子どもの親との対比－．小児がん看護 2018;13(1):17-27.

40. 入江　亘，塩飽　仁，鈴木祐子，井上由紀子．慢性疾患を抱える子どもをもつ親の就労実態および健康関連 QOL（Quality　of Life）との関連．北日本看護学会誌 2018;21(1):1-11.
41. 入江　亘，長谷川大輔，神谷尚宏，吉川久美子，永瀬恭子，関冨晶子，他．小児病棟に入院する小児がんの子どもの生活に対する家族の意識調査．日本小児血液・がん学会雑誌 2018;55(1):7-14.
後藤清香，塩飽 仁．小児がん患者の復学支援に関する文献検討．北日本看護学会誌 2019;21(2):53-64.
42. 佐藤幸子，塩飽　仁，遠藤芳子，今田志保．心身症・神経症児の学校等の仲間集団における対人関係で困難感が高まる場面の検討．北日本看護学会誌　2019;21(2):17-24.
43. 名古屋祐子，塩飽　仁，宮下光令．医師と看護師が終末期の小児がん患者と家族のケアに関する相談を行いやすいと感じる専門職種とその関連要因．Palliative Care Research 2018;13(1):89-98.

【精神看護学分野】

44. Yoshii H, Mitsunaga N, Saito H. Knowledge and Attitudes about Schizophrenia among Employers in Japan: Global Journal of Health Science. 2018 :10(2): 60-69
45. Yoshii H, Kitamura. N. Program for Promoting the Employment of Schizophrenic Patients in Japan. Global Journal of Health Science. 2018, 10(5): 70-77.

【周産期看護学分野】

46. Sato M, Sato M, Oyamada N, Sato K. Development of a Japanese version of Salmon's Item List suitable for comparing satisfaction with childbirth experience between different modes of delivery. J Jpn Acad Midwif. 2018;32(2):113-124.
47. Sato M, Oshitani H, Tamaki R, Oyamada N, Sato K, Nadra AR, Landicho J, Alday PP, Lupisan S, Tallo VL. Father’s roles and perspectives on healthcare seeking for children with pneumonia: findings of a qualitative study in a rural community of the Philippines. BMJ Open. 2018;8(11):e023857.
48. Nakamura Y, Sato M, Watanabe I. Positive Emotion and its Changes during Pregnancy: Adjunct Study of Japan Environment and Children’s Study in Miyagi Prefecture. Tohoku J Exp Med. 2018;245(4):223-230.
49. 安部葉子, 佐藤眞理, 小山田信子, 佐藤喜根子．助産師の特別養子縁組制度に対する考えと生みの親に対する理解．日本母性看護学会誌. 2018;18(1):39-46.
50. 三ツ谷彩芽, 小山田信子, 佐藤眞理．助産所の妊婦健診における助産師の発言の特徴．北日本看護学会誌. 2018;21(1):47-55.

【ウィメンズヘルス看護学分野】

51. Atogami F, Yamaguchi N, Nakamura Y, Yoshizawa T. What does Klinefelter syndrome mean for men with azoospermia in Japan? J Midwifery Reprod Health. 2018;6(2):1230-1235.
52. Chung HF, Pandeya N, Dobson AJ, Kuh D, Brunner EJ, Yoshizawa T, et al. The role of sleep difficulties in the vasomotor menopausal symptoms and depressed mood relationships: an international pooled analysis of eight studies in the interLACE consortium. Psychol Med. 2018;48(15):2550-2561.
53. Nakamura Y, Sato M, Watanabe I. Positive Emotion and its Changes during Pregnancy: Adjunct Study of Japan Environment and Children’s Study in Miyagi Prefecture. Tohoku J Exp Med. 2018;245(4):223-230.
54. 須原涼子, 跡上富美, アンガホッファ司寿子, 川尻舞衣子, 武石陽子, 中村康香, 吉沢豊予子. 20 歳代未婚女性がとらえる自らの妊孕力自己認識．母性衛生. 2018;59(2):544-5495-2.

原著論文・総説（査読なし）、紀要、解説

【看護管理学分野】

1. 朝倉京子，杉山祥子，原ゆかり，亀井ひとみ．大学院で学ぶ看護管理学 現場の実践から新たな「知」を生むために 21　東北大学大学院医学系研究科看護管理学分野 「『研究第一主義』の精神のもと，看護職の専門性と人材開発を科学的に探究する」.看護管理.東京:医学書院;2018.p.859-863.
2. 加藤茜．臨床現場の困ったを解決する看護理論　08.メレイスのトランジション理論　解説編・事例編 月間 Nursing 増刊号 2018;36(12):54-60.

【老年・在宅看護学分野】

3. 尾崎章子．高齢者に特有な症状・障害への看護におけるアセスメントとケア　睡眠障害，日本臨床臨時増刊号．2018; 76(Sl7): 769-73

【地域ケアシステム看護学分野】

4. 津野陽子，尾形裕也，古井祐司．健康経営と働き方改革．日本健康教育学会誌．2018；26（3）；291-297.

【公衆衛生看護学分野】

5. 髙橋恵子，亀井智子，大森純子，有森直子，麻原きよみ，菱沼典子，新福洋子，田代順子，大橋久美子，朝澤恭子．市民と保健医療従事者とのパートナーシップに基づく「People-Centered Care」の概念の再構築．聖路加国際大学紀要. 2018;4:9-17.

【がん看護学分野】

6. 佐藤菜保子，藤原夏美，阿部ともよ，千葉詩織，佐藤冨美子．膵癌患者に対する支援システム構築のためのテキストマイニング分析　第 1 報　―療養上の気がかりの全体像―．東北大学医学部保健学科紀要; 2018;28(1):21-3.
7. 藤原夏美，佐藤菜保子，千葉詩織，阿部ともよ，佐藤冨美子．膵癌患者に対する支援システム構築のためのテキストマイニング分析　第 2 報　―療養生活上の心理的適応に必要な支援ニーズ―．東北大学医学部保健学科紀要; 2018;28(1),33-43.
8. 佐藤菜保子．心の状態と音楽の嗜好性 - 医療・看護におけるリラクゼーションとしての音楽の活用 - aromatopia,2018.28 (1): 18-21.
9. 佐藤冨美子:クリティカルな状況から命・生活をつなぐシームレスな看護.日本クリティカルケア看護学会誌,2018;14:1-6.

【緩和ケア看護学分野】

10. 宮下光令．注目！がん看護における最新エビデンス 第27回 がん患者が診断時に標準治療でなく代替療法を選択した場合の生存期間．エンドオブライフケア. 2018; 2(6): 100-1.
11. 宮下光令．注目！がん看護における最新エビデンス 第 26 回 パクリタキセルによる末梢神経障害に対する手足の冷却療法の有効性．エンドオブライフケア. 2018; 2(5): 98-9.
12. 宮下光令．注目！がん看護における最新エビデンス 第 25 回 がん患者に対する看護師を中心とした多職種によるせん妄の予防と早期発見・早期対処：デルタプログラムの有効性．エンドオブライフケア. 2018; 2(4): 102-3.
13. 宮下光令．注目！がん看護における最新エビデンス 第 24 回 Web 端末を用いた患者の自己報告による症状のモニタリングによって進行がん患者の生存期間が延長する．エンドオブライフケア. 2018; 2(3): 100-2.

14. 宮下光令. 注目！がん看護における最新エビデンス 第 23 回 終末期せん妄に対するハロペリドールとベンゾジアゼピン系薬剤の併用効果. エンドオブライフケア. 2018; 2(2): 82-3.
15. 宮下光令. 注目！がん看護における最新エビデンス 第 22 回 心不全患者に対する緩和ケア. エンドオブライフケア. 2018; 2(1): 94-6.
16. 高橋理智, 森田達也, 野里洵子, 服部政治, 上野博司, 岡本禎晃, 伊勢雄也, 佐藤一樹, 宮下光令, 細川豊史. 日本のがん疼痛とオピオイド量の真実(第 3 回) 日本のがん患者の疼痛の頻度とPain Management Index に関するメタ分析. 緩和ケア. 2018; 28(1): 42-9.
17. Miyashita M. Editorial Special Issue: Pain Management. Asia Pac J Oncol Nurs. 2018; 5(3): 245-7.
18. 五十嵐尚子, 青山真帆, 吉田久美子, 田村久美子, 阿部佐智子, 小野寺幸恵, 高橋修子, 高橋まどか, 兼平麻衣子, 志田彩佳, 宮下光令. がん治療選択や治療による生活への影響およびサポートについての宮城県の現状と課題について-宮城県内のがん患者会会員調査を通して-. 東北大医保健学科紀要. 2018; 27(1): 31-42.

【小児看護学分野】

19. 入江 亘. 病気や障がいをもつ子どものきょうだいのストレスとコーピング, その支援. 小児看護 2018;41(7):833-841.

【精神看護学分野】

20. 橋本恵子 吉井初美 齋藤秀光.若年女性労働者の心の健康とレジリエンス. 東北大学医学部保健学科紀要 2018,1 27-1

【周産期看護学分野】

21. 和田彩, 中村康香, 跡上富美, 佐藤眞理, 吉沢豊予子. 就労妊婦の罪悪感の測定「胎児への罪悪感尺度」と「職場への罪悪感尺度」の開発：信頼性と妥当性の検討. 東北大学医学部保健学科紀要. 2018;27(1):23-30.

【ウィメンズヘルス看護学分野】

22. 吉沢豊予子. 「家族のダイバーシティ」を 3 方向から探る. 看護教育. 2018;59(11):948-955.
23. 吉沢豊予子. 地元の持続可能性を高める看護学の発展. 学術の動向. 2018;23(6):91-93.

5-3. 著書

【看護アセスメント学分野】

1. 丹野寛大, 菅野恵美: 急性創傷と慢性創傷の治癒過程. 菅野恵美 企画編集, WOC Nursing. 東京: 医学出版, 2018. P. 5-12.
2. 菅野恵美: バイオフィルム制御による創傷治癒へのアプローチ. 菅野恵美 企画編集, WOC Nursing. 東京: 医学出版, 2018. p. 20-25.
3. 菅野恵美: Part3 column 4. 研究者の目から見た皮膚科学の面白さ！－創傷治癒過程の華麗なるバトンパスに魅了されて－. 安部正敏 責任編集, Visual Dermatology. 東京, 秀潤社, 2018. p. 180.

【緩和ケア看護学分野】

4. 宮下光令（分担執筆）. 終末期・臨死期のケアと遺族ケア. 大西和子, 飯野京子, 平松玉江（編）がん看護学 臨床に生かす看護の基礎と実践（第 2 版）. ヌーヴェルヒロカワ, 東京, 313-24, 2018.

5. 宮下光令, 林ゑり子(編著). 看取りケア プラクティス×エビデンス 今日から活かせる 72 のエッセンス, 南江堂, 東京, 2018.
6. 青山真帆. 第IV章. グリーフケア　5.「気になるな」と思った遺族にどうアプローチするか?. In: 宮下光令・林ゑり子（編）.看取りケア　プラクティス×エビデンス—今日から活かせる 72 のエッセンス.南江堂, 東京, 2018. 274-275.
7. 青山真帆. 第IV章. グリーフケア　2. 一般病棟でもできるグリーフケアは?. In: 宮下光令・林ゑり子（編）.看取りケア　プラクティス×エビデンス—今日から活かせる 72 のエッセンス.南江堂, 東京, 2018. 262-264.
8. 青山真帆. 第IV章. グリーフケア　1. 遺族が一番つらい時期っていつごろ?. In: 宮下光令・林ゑり子（編）.看取りケア　プラクティス×エビデンス—今日から活かせる 72 のエッセンス.南江堂, 東京, 2018. 259-61.

5-4. 国際学会発表

【看護アセスメント学分野】

1. Hoshi J, Yang H, Sun X, Tanno H, Kanno E, Maruyama. Mozart's and Bach's music yielded little relaxation effect as indicated HR, BP, and autonomic nervous activity. Experimental Biology, 2018 April 21-25, San Diego, USA.
2. Sun X, Saito S, Yang H, Hoshi J, Tanno H, Kanno E, Maruyama R. Do sprinters and distance runners have the same autonomic nervous activity and hemodynamic responses? Experimental Biology, 2018 April 21-25, San Diego, USA.
3. Sasaki K, Ota H, Kimura T, Onuma T, Nagasaka T, Saiki Y, Maruyama R. Evaluation of cardiovascular hemodynamics in response to recumbent positions by using magnetic resonance imaging. Experimental Biology, 2018 April 21-25, San Diego, USA.

【地域ケアシステム看護学分野】

4. Matsunaga A, Yamamoto-Mitani N, Nagata S, Kobayashi S. Broken away from my life-world: Qualitative exploration on the experience of seniors in the Great East Japan Earthquake. 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference; 2018 Jan 11-12; Seoul

【公衆衛生看護学分野】

5. Taguchi A, Murayama H, Takeda K, Ito K, Tonai S. Recruiting, training, and supporting community based health promotion volunteers in Japan: findings from a national survey. APHA's 2018 Annual Meeting & Expo; 2018 Nov 10-14; San Diego.
6. Takahashi K, Kamei T, Arimori N, Asazawa K, Asahara K, Shimpuku Y, Omori J, Hishinuma M, Tashiro J, Ohashi K. Assessment Scale for People-Centered Care in the community: Developmental Process and Face Validity. 12th Biennial Conference of the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery 'Universal Health Coverage: SDGs are everyone's business.' 2018 July 18-19; Cairns, Australia.

【緩和ケア看護学分野】

7. Miyashita M. Evaluation of quality of palliative care by post-bereavement survey in Japan. Korean Society for Hospice Palliative Care 20th Anniversary Conference, 2018 July 6-7, Seoul, Korea.

8. Miyashita M. J-HOPE study: evaluation of quality of palliative care by post-bereavement survey in Japan. 8th Nursing Symposium on Cancer Care, 2018 May 24-25, Shatin, Hong Kong.
9. Miyashita M, Matoba K, Sasahara T, Nakajima N, Kizawa Y, Abe M, Kawa M, Morita T, Shima Y. The development of STAS in clinical and research settings in Japan: From STAS to POS, Palliative care outcome scale workshop 2018, 2018 Feb 8-9, London, UK.
10. Shida A, Aoyama M, Kanehira M, Yoshida K, Onodera S, Takahashi S, Takahashi M, Tanikawa S, Tamura K, Miyashita M . Financial burden during cancer treatment among adult female patients and survivors from patients' associations in Japan. The 21st annual Conference EAFONS, 2018 January 11-12, Seoul, South Korea.
11. Yonenaga Y, Aoyama M, Moriya Y, Igarashi N, Morita T, Kizawa Y, Tsuneto S, Shima Y, Miyashita M. Regional differences in quality of care, complicated grief, and depression among bereaved family members: results from a nationwide bereavement survey in Japan. The 21st annual Conference EAFONS, 2018 January 11-12, Seoul, South Korea.

【小児看護学分野】

12. Irie W, Nagoya Y, Inoue Y, Sugahara A, Hayasihara K, Tachibana Y, Shimoyama E, Shiwaku H. Restructuring an appropriate psychological distance from the cancer in children: parents of children with hematopoietic malignancies. 22th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), 2019 Jan 17th, Singapore, Singapore.
13. Nagoya Y, Irie W, Irie C, Kimura K, Yoshimoto Y, Iwasaki M, Shiwaku H, Sato A. Contents that family members of long-term hospitalized pediatric patients in the oncology unit told a certified nurse specialist abouty the child's "siblings". 50th Congress of International Sosiety of Paediatric Oncology (SIOP), 2018 Nov 18th, Kyoto, Japan.

【周産期看護学分野】

14. Aoki A, Shida T, Sato M, Oyamada N, Yoshizawa T. Time Freed from Child-Attending and Mother's Stress During Children's Hospitalization: The Preliminary Study. The 21st East Asian Forum of Nursing Scholars &11th International Nursing Conference; 2018 Jan 11-12; Seoul, Korea.
15. Sato M. Qualitative analysis of fathers' perspectives on and challenges to seeking care for children with pneumonia in a rural community in the Philippine. The 21st East Asian Forum of Nursing Scholars &11th International Nursing Conference; 2018 Jan 11-12; Seoul, Korea.

【ウィメンズヘルス看護学分野】

16. Mochizuki M, Sakamura S, Nakamura Y, Atogami F, Yoshizawa T. Examining Emotional Availability to Infant Expressions Among Male Adolescents Using Japanese IFEEL Pictures. The 21st East Asian Forum of Nursing Scholars &11th International Nursing Conference; 2018 Jan 11-12; Seoul, Korea.
17. Angerhofer S, Atogami F, Nakamura Y, Yoshizawa T. Reproductive Health Awareness among Employed Married Women Who Wish to have Children; Focusing on Women in their 30s. The 21st East Asian Forum of Nursing Scholars &11th International Nursing Conference; 2018 Jan 11-12; Seoul, Korea.
18. Takeishi Y, Nakamura Y, Kawajiri M, Atogami F, Yoshizawa T. Evaluation of Preventing Postpartum Depression by Couple-Based Educational Intervention to Promote Co-Parenting Relationship. A Preliminary Trial. The 21st East Asian Forum of Nursing Scholars &11th International Nursing Conference; 2018 Jan 11-12; Seoul, Korea.

19. Aoki A, Shida T, Sato M, Oyamada N, Yoshizawa T. Time Freed from Child-Attending and Mother's Stress During Children's Hospitalization: The Preliminary Study. The 21st East Asian Forum of Nursing Scholars &11th International Nursing Conference; 2018 Jan 11-12; Seoul, Korea.

5-5. 国内学会発表

【看護アセスメント学分野】

1. Kanno E, Tanno H, Sasaki A, Ishii K, Saijo S, Iwakura Y, Kawakami K. Dectin-2-mediated signaling leads to delayed skin wound healing through enhanced neutrophilic inflammatory response and NETosis. 第 47 回日本免疫学会学術集会, 2018, Dec 10-12, 福岡.
2. Tanno H, Kanno E, Sasaki A, Ishii K, Kawakami K. Contribution of iNKT cells to the clearance of *Pseudomonas aeriginosa* from skin wounds. 第 47 回日本免疫学会学術集会, 2018, Dec 10-12, 福岡.
3. Sasaki A, Kanno E, Tanno H, Ishii K, Iwakura Y, Kawakami K. Effect of interferon-γ deficiency on skin wound healing processes. 第 47 回日本免疫学会学術集会, 2018, Dec 10-12, 福岡.
4. 丹野寛大, 菅野恵美, 佐藤すずな, 霜野瑞葵, 佐々木綾子, 山口賢次, 石井恵子, 丸山良子, 川上和義, 館正弘. 緑膿菌接種創の治癒過程における Natural Killer T 細胞の役割. 第 48 回日本創傷治癒学会, 2018, Nov 29-30, 東京.
5. 山口賢次, 川上和義, 菅野恵美, 丹野寛大, 佐々木綾子, 三浦考行, 高木尚之, 館正弘. 皮膚創傷治癒における Dectin-1、2 シグナル活性化の影響の違い. 第 48 回日本創傷治癒学会, 2018, Nov 29-30, 東京.
6. 佐々木綾子, 菅野恵美, 丹野寛大, 石井恵子, 丸山良子, 川上和義, 館正弘. Dectin-2 シグナル活性化による創傷治癒遅延への Natural Killer T 細胞の関与. 第 48 回日本創傷治癒学会, 2018, Nov 29-30, 東京.
7. 丹野寛大, 菅野恵美, 佐藤すずな, 山口賢次, 石井恵子, 丸山良子, 川上和義, 館正弘. 緑膿菌接種創の治癒過程と菌排除における NKT 細胞欠損の影響. 第 20 回日本褥瘡学会学術集会, 2018, Sep 28-29, 横浜.
8. 菅野恵美. バイオフィルム制御による創傷治癒への新たなアプローチ. 第 20 回日本褥瘡学会学術集会 ランチョンセミナー プロントザン (Prontsan) 日本上陸。創面の抗菌・浄化への新たな戦略, 第 20 回日本褥瘡学会学術集会, 2018, Sep 28-29, 横浜.
9. Hoshi J, Yang H, Sun X, Tanno H, Kanno E, Maruyama. Does Mozart's and Bach's music have a relaxation effect? 第 95 回日本生理学会大会, 2018, Mar 28-30,高松.
10. 門脇美佳, 菅野恵美, 小川武則, 後藤えり子. 頭頸部放射線治療中の放射線皮膚炎に対してソフトシリコンタイプの創傷被覆材によるケアが奏功した事例. 第 32 回日本がん看護学会, 2018, Feb, 3-4, 幕張.

【看護管理学分野】

11. 加藤茜.ベッドサイドでガイドラインはどれだけ順守できるのか？－終末期医療に関するガイドライン－.第 20 回日本救急看護学会学術集会.2018 Oct;和歌山.
12. 加藤茜.ベッドサイドでガイドラインはどれだけ順守できるのか？-終末期患者家族のこころのケア指針-. 第 20 回日本救急看護学会学術集会.2018 Oct;和歌山.
13. 金野佳央莉, 原ゆかり, 朝倉京子.助産師の職務満足度に関連する要因の検討.第 38 回日本看護科学学会学術集会.2018 Dec;松山.

14. 清水恵, 金澤悦子, 大桐規子, 高田望, 浦山美輪. 東北大学病院における質の高い看護研究のための支援体制の強化, 第 9 回日本臨床試験学会学術総会.2018 Feb;仙台
15. 杉山祥子, 高田望, 原ゆかり. 看護師が PNS の実施に対して抱くメリット・デメリット. 第 38 回日本看護科学学会学術集会;2018 Dec;松山.
16. 関根 菊奈, 高田 望, 朝倉 京子. 臨床経験 5 年以下の看護師の専門職的自律性に対する態度と能力開発行動との関連. 第 38 回日本看護科学学会学術集会;2018 Dec;松山
17. 高田望, 鈴木美寿穂, 門間典子, 菅原明子, 神裕子, 酒井敬子, 三橋光. PNS で働く看護師のペアで働くことに対する肯定感の実態と影響要因. 第 22 回日本看護管理学会学術集会. 2018 Oct;兵庫
18. 高田望, 原ゆかり, 杉山祥子, 鈴木美寿穂, 神裕子, 酒井敬子. PNS の実施およびチームワークが看護師の職務満足度に及ぼす影響. 第 38 回日本看護科学学会学術集会. 2018 Dec;松山.
19. 飛田洋輔, 二瓶洋子, 朝倉京子. 厚生労働省の取り組みからみる医療安全対策の変遷. 第 38 回日本看護科学学会学術集会. 2018 Dec;松山.
20. 野澤友紀, 原ゆかり, 朝倉京子. 新卒看護師の職務満足度に影響を与える要因. 第 38 回日本看護科学学会学術集会. 2018 Dec;松山.

【老年・在宅看護学分野】

21. 尾﨑章子, 柏崎信子, 大橋由基. 在宅患者における睡眠薬の関連が推察される有害事象の検討. 日本睡眠学会第 43 回定期学術集会; 2018 July11-13 ; 札幌
22. 尾﨑章子. 看護師が考える検査説明に配慮すべきポイント, 睡眠医療において検査説明のできる技師. 日本睡眠学会第 43 回定期学術集会; 2018 July11-13 ; 札幌
23. 尾﨑章子. 保健師・看護師と地域包括・多職種連携, 睡眠障害と地域連携・多職種協働. 日本睡眠学会第 43 回定期学術集会; 2018 July11-13 ; 札幌
24. 多留ちえみ, 斎藤奈緒, 尾﨑章子, 宮脇郁子. 夜間睡眠中の自律神経活動と脳波との関連. 日本睡眠学会第 43 回定期学術集会; 2018 July11-13 ; 札幌
25. 立石清一郎, 森 晃爾, 林末美, 吉田彩夏, 泉博之, 宮原広典, 前之原茂穂, 櫻井純子, 尾﨑章子. 有効視野改善のための生活改善指導マニュアルの作成. 第 28 回九州農村医学会; 2018 Aug11;
26. 冨田尚希, 大橋由基, 植田寿里, 石木愛子, 尾﨑章子, 中尾光之, 荒井啓行. 高齢者の総合評価に適した生活状況評価尺度の開発：インターネット調査による予備検討. 第 37 回日本認知症学会学術集会; 2018 Oct12-14; 札幌
27. 冨田尚希, 大橋由基, 尾﨑章子, 中尾光之, 荒井啓行. 高齢者総合機能評価用 ICF(CGA corset)作成と Geriatric ICF coresets との比較検討 Development of ICF coreset for CGA and its comparison with Geriatric ICF coresets 日・WHO フォーラム(WHO-Japan Forum) ; 2018 Nov30; 東京
28. 大橋由基, 尾﨑章子. 大学法人が設置する訪問看護ステーションの活動と課題. 第 8 回日本在宅看護学会学術集会; 2018Dec8-9; 静岡

【地域ケアシステム看護学分野】

29. 姉崎沙緒里, 稲垣安沙, 野口麻衣子, 津野陽子, 五十嵐歩, 大森純子, 山本則子. Social Community Nurses(SCNs)の活動実態(第 1 報) 活動技法の明確化. 第 38 回日本看護科学学会学術集会; 2018 Dec 15-16; 松山市

30. 野口麻衣子, 姉崎沙緒里, 津野陽子, 稲垣安沙, 五十嵐歩, 大森 純子, 山本 則子. Social Community Nurses (SCNs)の活動実態（第 2 報） 類型化の試み. 第 38 回日本看護科学学会学術集会; 2018 Dec 15-16; 松山市
31. 小川尚子, 森下絵梨, 岩間純子, 松永篤志, 備前真結, 伊藤海, 村山洋史, 田口敦子. 地域課題の共有を重視した介護予防サポーター養成プログラムの効果 プロセス評価. 第 77 回日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山
32. 高橋由香, 津野陽子, 中野久美子, 大森純子. 中小企業におけるデータヘルス計画に基づくコラボヘルスの取り組み. 第 77 回日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山
33. 田口敦子, 永田智子, 山内泰子, 後藤悦子, 高橋瑞穂, 山内悦子, 松永篤志, 佐藤日菜, 劔持麻美. 外来で在宅療法支援を必要とする患者特性の検討（第 2 報）外来患者を対象とした調査. 日本地域看護学会第 21 回学術集会; 2018 Aug. 11-12; 岐阜市
34. 田口敦子, 松永篤志, 森下絵梨, 小川尚子, 岩間純子, 備前真結, 伊藤海, 村山洋史. 地域課題の共有を重視した介護予防サポーター養成プログラムの効果 アウトカム評価. 第 77 回日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山
35. 津野陽子, 尾形裕也, 古井祐司, 渋谷克彦, 井手義雄, 平田輝昭, 福井卓子. 病院組織における従業員の生産性・健康リスクと配偶者の健康リスクの関連. 第 56 回日本医療・病院管理学会学術総会; 2018 Oct 27-28; 福島市
36. 永田智子, 田口敦子, 山内泰子, 後藤悦子, 高橋瑞穂, 山内悦子, 松永篤志, 佐藤日菜, 劔持麻美. 外来で在宅療法支援を必要とする患者特性の検討（第 1 報）看護師による判断と患者特性との関連. 日本地域看護学会第 21 回学術集会; 2018 Aug. 11-12; 岐阜市
37. 野口麻衣子, 姉崎沙緒里, 津野陽子, 稲垣安沙, 五十嵐歩, 大森純子, 山本則子. Social Community Nurses(SCNs)の活動実態(第 2 報) 類型化の試み. 第 38 回日本看護科学学会学術集会; 2018 Dec 15-16; 松山市
38. 引間千尋, 松永篤志, 田口敦子. 東日本大震災の被災者のうち定期的な地域見守り活動が必要とされている者の特徴抽出. 日本地域看護学会第 21 回学術集会; 2018 Aug. 11-12; 岐阜市
39. 備前真結, 田口敦子, 松永篤志, 伊藤海. 地域住民を対象とした介護予防サポーターの育成プログラムに関する文献レビュー.第 77 回日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山
40. 山内泰子, 後藤悦子, 山内悦子, 田口敦子, 松永篤志, 永田智子. 外来での在宅療養支援カンファレンスの標準化と実行可能性を高めるための試行. 第 20 回日本医療マネジメント学会学術総会; 2018 June 8-9; 札幌

【公衆衛生看護学分野】

41. 朝澤恭子, 高橋恵子, 有森直子, 亀井智子, 麻原きよみ, 新福洋子, 大森純子, 菱沼典子, 田代順子. 市民と保健医療専門職における「People-Centered Care パートナーシップ尺度」の開発 短縮版(16 項目)尺度信頼性と妥当性の検討(第 2 報). 第 23 回聖路加看護学会学術大会; 2018 Sep 16; 東京.
42. 姉崎沙緒里, 稲垣安沙, 野口麻衣子, 津野陽子, 五十嵐歩, 大森純子, 山本則子. Social Community Nurses(SCNs)の活動実態(第 1 報) 活動技法の明確化. 第 38 回日本看護科学学会学術集会; 2018 Dec 15-16; 松山.

43. 安保寛明, 今野浩之, 佐藤志保, 後藤順子. 山形発・地元ナース養成プログラムによる小規模病院等看護師への看護研究支援の成果. 第 44 回山形県公衆衛生学会; 2018 Mar 8; 山形.
44. 大森純子. 今後の保健師のリーダーに必要とされる能力と教育のあり方 リーダーの資質を開発するために. 第 77 回日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山.
45. 大森純子, 中野久美子, 田口敦子, 北出順子, 川崎千恵. 原子力災害リスクに備える看護職間ネットワーク形成に関するエスノグラフィー. 第 77 回日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山.
46. 小川尚子, 森下絵梨, 岩間純子, 松永篤志, 備前真結, 伊藤海, 村山洋史, 田口敦子. 地域課題の共有を重視した介護予防サポーター養成プログラムの効果 プロセス評価. 第 77 回日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山.
47. 小澤涼子, 大森純子.「農業従事者の Health Belief」の概念分析. 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2018 Jan 6-7; 大阪.
48. 織田佳葉子, 石崎絵里佳, 山内悦子, 田口敦子. サービス未介入認知症患者における地域包括支援センターとの連携に関する意識調査. 第 20 回日本医療マネジメント学会学術総会; 2018 June 8-9; 札幌.
49. 北宮千秋, 多喜代健吾, 山田基矢, 大森純子, 小西恵美子, 菊地透, 吉田浩二, 麻原きよみ. 住民対応を主とした放射線教育プログラムでの学び. 第 7 回日本放射線看護学会学術集会; 2018 Sep 8-9; 長崎.
50. 今野浩之, 大森純子.「精神障がい者の Recovery」の概念分析. 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2018 Jan 6-7; 大阪.
51. 佐藤あかり, 竹田香織, 大森純子. 自殺問題への先行的取り組みを行ってきた地域における自治体主体の一次予防対策の現状と課題に関する文献検討. 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2018 Jan 6-7; 大阪.
52. 佐藤清湖, 森田誠子, 中野久美子, 田口敦子, 松永篤志, 大森純子. “地域への愛着”に関する研究動向の文献レビュー. 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2018 Jan 6-7; 大阪.
53. 佐藤ひかり, 竹田香織, 大森純子. 高齢者の生きがいに関する文献検討. 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2018 Jan 6-7; 大阪.
54. 島村紗綾, 田口敦子, 大森純子. 保健師が関わる特定保健指導に関する文献検討 保健指導の実践に着目した研究動向. 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2018 Jan 6-7; 大阪.
55. 白川美弥子, 矢津剛, 沖永美幸, 藤春千恵美, 佐伯由美, 神山芳美, 鎌田彩希, 田口敦子, 菅野雄介, 深堀浩樹, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発(第 3 報)-実行可能性の評価-. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会; 2018 Jun 15-17; 神戸.
56. 高田早苗, 小板橋喜久代, 大森純子, 佐藤和佳子, 吉田澄恵, 濱田真由美, 川原由佳里. 看護学学術用語の検討 Part2-2011 年版の改訂に向けて. 看護科学学会学術用語検討委員会 ワークショップ. 第 38 回日本看護科学学会学術集会; 2018 Dec 15-16; 松山.
57. 高橋恵子, 朝澤恭子, 有森直子, 亀井智子, 麻原きよみ, 新福洋子, 大森純子, 菱沼典子, 田代順子. 市民と保健医療専門職における「People-Centered Care パートナーシップ尺度」の開発 信頼性と妥当性の検討(第 1 報). 第 23 回聖路加看護学会学術大会; 2018 Sep 16; 東京.
58. 高橋恵子, 朝澤恭子, 有森直子, 亀井智子, 麻原きよみ, 菱沼典子, 大森純子, 新福洋子. 市民と保健医療専門職における People-Centered Care パートナーシップの関連要因. 第 38 回日本看護科学学会学術集会; 2018 Dec 15-16; 松山.

59. 高橋由香, 津野陽子, 中野久美子, 大森純子, 中小企業におけるデータヘルス計画に基づくコラボヘルスの取り組み, 第 77 回日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山.
60. 田口敦子, 鎌田彩希, 白川美弥子, 矢津剛, 神山芳美, 沖永美幸, 藤春千恵美, 佐伯由美, 菅野雄介, 深堀浩樹, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発(第 2 報)-チェックリスト使用前後の評価-. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会; 2018 Jun 15-17, 神戸.
61. 田口敦子, 永田智子, 山内泰子, 後藤悦子, 高橋瑞穂, 山内悦子, 松永篤志, 佐藤日菜, 劔持麻美. 外来で在宅療養支援を必要とする患者特性の検討(第 2 報) 外来患者を対象とした調査. 第 21 回日本地域看護学会学術集会; 2018 Aug 11-12; 岐阜.
62. 田口敦子, 松永篤志, 森下絵梨, 小川尚子, 岩間純子, 備前真結, 伊藤海, 村山洋史. 地域課題の共有を重視した介護予防サポーター養成プログラムの効果 アウトカム評価. 第 77 回日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山.
63. 永井智子, 梅田麻希, 麻原きよみ, 三森寧子, 遠藤直子, 江川優子, 小林真朝, 佐伯和子, 大森純子, 嶋津多恵子, 川崎千恵, 永田智子, 佐川きよみ, 小西美香子. 地域保健活動における主要用語の定義 デルファイ法を用いた全国調査. 第 77 回日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山.
64. 永田智子, 田口敦子, 山内泰子, 後藤悦子, 高橋瑞穂, 山内悦子, 松永篤志, 佐藤日菜, 劔持麻美. 外来で在宅療養支援を必要とする患者特性の検討(第 1 報) 看護師による判断と患者特性との関連. 第 21 回日本地域看護学会学術集会; 2018 Aug 11-12; 岐阜.
65. 西沢義子, 太田勝正, 野戸結花, 青木和恵, 大森純子, 作田裕美. 放射線看護の臨床研究をかたちにする. 第 7 回日本放射線看護学会学術集会; 2018 Sep 8-9; 長崎.
66. 野口麻衣子, 姉崎沙緒里, 津野陽子, 稲垣安沙, 五十嵐歩, 大森純子, 山本 則子. Social Community Nurses (SCNs)の活動実態(第 2 報) 類型化の試み. 第 38 回日本看護科学学会学術集会; 2018 Dec 15-16; 松山.
67. 針金佳代子, 吉田礼維子, 若山好美, 小澤涼子. 修士課程における公衆衛生看護の本質をみつめる現地学習の展開. 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2018 Jan 6-7; 大阪.
68. 引間千尋, 松永篤志, 田口敦子. 東日本大震災の被災者のうち定期的な地域見守り活動が必要とされている者の特徴抽出. 第 21 回日本地域看護学会学術集会; 2018 Aug 11-12; 岐阜.
69. 備前真結, 田口敦子, 松永篤志, 伊藤海, 地域住民を対象とした介護予防サポーターの育成プログラムに関する文献レビュー, 第 77 回日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山.
70. 森田誠子, 大森純子. 行政保健師の裁量:文献レビュー. 第 77 回日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山.
71. 森田誠子, 大森純子. 概念分析による「裁量」の研究. 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2018 Jan 6-7; 大阪.
72. 矢津剛, 白川美弥子, 神山芳美, 沖永美幸, 藤春千恵美, 佐伯由美, 田口敦子, 菅野雄介, 深堀浩樹, 宮下光令. 在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発(第 1 報)-チェックリストの作成プロセス-. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会; 2018 Jun 15-17; 神戸.
73. 山内泰子, 後藤悦子, 山内悦子, 田口敦子, 松永篤志, 永田智子. 外来での在宅療養支援カンファレンスの標準化と実行可能性を高めるための試行. 第 20 回日本医療マネジメント学会学術総会; 2018 June 8-9; 札幌.

74. 山縣千尋, 深堀浩樹, 廣岡佳代, 菅野雄介, 田口敦子, 松本佐知子, 宮下光令. 高齢者ケア施設におけるエンド・オブ・ライフ・ケア Integrated Care Pathways に関する介入・実装研究:スコーピングレビュー. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会; 2018 Jun 15-17; 神戸.
75. 吉田礼維子, 若山好美, 小澤涼子, 針金佳代子, 白井英子. 介護予防システムを推進する保健師の活動とその関連要因―保健師の活動強化の検討―. 第 77 回日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山.
76. 吉田礼維子, 若山好美, 小澤涼子, 針金佳代子, 白井英子. 介護予防システムを推進する保健師の活動を促進・阻害する要因と活動に影響を及ぼした体験. 第 21 回日本地域看護学会学術集会; 2018 Aug 11-12; 岐阜.
77. 若山好美, 小澤涼子, 吉田礼維子, 針金佳代子. 公衆衛生看護実習と連動させた健康危機管理演習の学びと今後の課題. 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会; 2018 Jan 6-7; 大阪.
78. 渡邊礼子, 槌谷由美子, 今野浩之, 佐藤志保. 山形発・地元ナース養成プログラムの民間汎用 ICT サービスによる遠隔地間グループワークの経験. 第 44 回山形県公衆衛生学会; 2018 Mar 8; 山形.

【地域保健学分野】

79. Chiu C, Nakano K, Omori J. Everyone matters: A pilot workshop to promote patient-centered cross-cultural care among Japanese nursing students; The Japan Association for Nursing English Teaching (JANET) conference; 23-24 June 2018; Fukui.
80. Chiu C., Aoyama M, Nakano K. English improvement for Japanese nursing students through a global health course: a flipped-classroom approach; The Japan Association for Nursing English Teaching (JANET) conference; 23-24 June 2018; Fukui.
81. 山中郁, 中野久美子. パキスタンにおけるポリオ撲滅事業の体制・活動・課題の現状; 日本公衆衛生学会総会; 2018 Oct 24-26; 郡山

【がん看護学分野】

82. 神裕子, 佐藤冨美子, 酒井敬子, 山内泰子, 片倉睦, 今野朱美, 伊藤由江. 看護師が臨床研究を行うための教育・環境ニーズに関する質的分析. 第 38 回日本看護科学学術集会;2018 Dec15-16;愛媛.
83. 佐藤みほ, 佐藤 菜保子, 藤村朗子. 看護系大学教員に必要なコンピテンシーに関する文献検討. 第 38 回日本看護科学学術集会;2018 Dec15-16;愛媛.
84. 霜山真, 佐藤冨美子, 佐藤菜保子, 千葉詩織, 井上水絵, 大泉千賀子:慢性呼吸不全患者に対する急性増悪予防効果を目的とした遠隔看護介入効果―多施設無作為化比較試験―. 第 38 回日本看護科学学術集会;2018 Dec15-16;愛媛.
85. 千葉詩織, 佐藤冨美子, 佐藤菜保子, 井上水絵, 大泉千賀子, 霜山真:進行がん患者によるオピオイド服薬セルフマネジメント概念の検討―インタビュー調査より―. 第38回日本看護科学学術集会;2018 Dec15-16;愛媛.
86. 南理央, 佐藤菜保子, 元井冬彦, 佐藤冨美子, 海野倫明. 膵切除患者の術後 3 カ月における倦怠感に影響する要因の検討. 第 56 回日本癌治療学会学術集会;2018 Oct 18;横浜.
87. 佐藤冨美子,酒井敬子,神裕子,片倉睦,山内泰子:臨床看護師のリサーチマインドを育む看護教育プログラムの作成,日本看護学教育学会第 28 回学術集会;2018 Aug28-29:横浜.
88. 斎藤麻美,佐藤菜保子,佐藤冨美子:実習初期に周術期がん患者を受け持った学生の自己評価高低群の学びの特徴, 日本看護学教育学会第 28 回学術集会;2018 Aug28-29:横浜

89. 霜山真, 非侵襲的陽圧換気療法を受けている慢性呼吸不全患者への遠隔看護について. 第 40 回日本呼吸療法医学会学術集会;2018 Aug4-5;東京.
90. 千葉詩織, Personalized Pain Goal を用いてがん疼痛評価を行い疼痛緩和に至った 1 例. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会;2018 jun15-17;神戸.
91. 尾辻 美沙, 佐藤 菜保子.聴き手の精神的健康状態と音楽の嗜好性の関連を基にした BGM の検討. 第 59 回日本心身医学会学術講演会;2018 jun8-9;名古屋.
92. 佐藤冨美子・石田孝宣、乳がん術後 5 年までの上肢機能障害予防改善に向けた教育介入のセルフケア効果. 第 26 回日本乳癌学会学術総会;2018May16-19;京都.
93. 佐藤冨美子, 佐藤菜保子, 齋藤麻美. 乳がん術後 5 年の上肢機能障害と QOL の関連. 第 7 回日本がんリハビリテーション研究会;2018 Mar 10;神戸.
94. 佐藤はなの, 佐藤冨美子. 乳がん患者の乳房再建術に伴う意思決定プロセスに関する文献検討. 第 15 回日本乳癌学会東北地方会;2018 Mar 3;仙台.
95. 千葉詩織, 佐藤菜保子, 佐藤冨美子. 在宅療養中の進行がん患者が重要と考える疼痛マネジメント.第 32 回日本がん看護学会学術集会;2018 Feb 3-4;千葉.
96. 佐藤冨美子, 佐藤菜保子, 齋藤麻美:乳がん術後 5 年の上肢機能障害と影響要因. 第 32 回日本がん看護学会学術集会;2018 Feb 3-4;千葉.
97. 富澤あゆみ, 佐藤冨美子, 佐藤菜保子:在宅療養支援診療所を利用する終末期がん患者の主介護者の介護負担感に関連する要因の検討. 第 32 回日本がん看護学会学術集会;2018 Feb 3-4;千葉.
98. 井上水絵, 佐藤冨美子:婦人科がん術後患者の排尿障害に関する実態調査. 第 32 回日本がん看護学会学術集会;2018 Feb 3-4;千葉.

【緩和ケア看護学分野】

99. 水野篤,宮下光令.非がん患者の緩和ケア(呼吸器疾患,心疾患).第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
100. 高橋理智,村上義孝,宮下光令.オピオイド消費量の都道府県格差に関する検討.第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
101. 佐藤悠子,大石隆之,高橋昌宏,宮下光令,石岡千加史.がん薬物療法の効果の認識による看取り場所の希望と実際.第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
102. 高橋紀子,中條庸子,早坂利恵,佐々木理衣,宮下光令.宮城県内の看護師を対象とした「緩和ケアリンクナース養成研修」の開催と今後の課題. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
103. 石垣和美,前田一石,森一郎,清水陽一,宮下光令,伊藤則幸.ホスピス入院中の終末期がん患者の家族介護者に対する調査研究への参加のバリア.第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
104. 山縣千尋,深堀浩樹,廣岡佳代,菅野雄介,田口敦子,松本佐知子,宮下光令.高齢者ケア施設におけるエンド・オブ・ライフ・ケア Integrated Care Pathways に関する介入・実装研究:スコーピングレビュー.第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
105. 五十嵐尚子,青山真帆,吉田久美子,田村久美子,阿部佐智子,小野寺幸枝,高橋修子,高橋まどか,兼平麻衣子,志田彩佳,宮下光令.がんの治療選択や治療による生活への影響およびサポートについての宮城県の現状と課題についてー宮城県内がん患者会会員調査を通してー.第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.

106. 志田彩佳,青山真帆,吉田久美子,田村久美子,阿部佐智子,小野寺幸枝,高橋修子,高橋まどか,兼平麻衣子,五十嵐尚子,宮下光令.女性がんサバイバーにおける治療による生活の切り詰めの体験とその関連要因.第23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
107. 佐藤一樹,後藤佑菜,宮下光令,森田達也,岩淵正博,大西佑香,木下寛也.非がん終末期患者の苦痛症状の実態と遺族による終末期の苦痛症状の全般的評価への影響.第23回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
108. 佐藤一樹,藤田裕子,田辺公一,橋本孝太郎,河原正典,鈴木雅夫,宮下光令.2014 年のがん患者の市町村別自宅死亡率と医療社会的指標との関連:地域相関研究.第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
109. 佐藤一樹,大西佑香,宮下光令,森田達也,岩淵正博,後藤佑菜,木下寛也.非がん終末期のケアと望ましい死の達成の遺族による評価:がん終末期との比較.第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
110. 矢津剛,白川美弥子,神山芳美,沖永美幸,藤春千恵美,佐伯由美,田口敦子,菅野雄介,深堀浩樹,宮下光令.在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発(第 1 報)-チェックリストの作成プロセス-.第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
111. 田口敦子,鎌田彩希,白川美弥子,矢津剛,神山芳美,沖永美幸,藤春千恵美,佐伯由美,菅野雄介,深堀浩樹,宮下光令.在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発(第 2 報)-チェックリスト使用前後の評価-.第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
112. 宮下光令,五十嵐尚子,青山真帆,清水恵,佐藤一樹,森田達也,木澤義之,恒藤暁,志真泰夫.J-HOPE 研究の10 年:2007 年～2016 年のわが国の緩和ケアの質の推移.第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
113. 米永裕紀,青山真帆,森谷優香,五十嵐尚子,升川研人,森田達也,木澤義之,恒藤暁,志真泰夫,宮下光令.緩和ケア病棟におけるケアの質および遺族の悲嘆・抑うつの地域差-全国調査の結果から-.第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
114. 青山真帆,兼平麻衣子,吉田久美子,田村久美子,阿部佐智子,小野寺幸枝,高橋修子,高橋まどか,五十嵐尚子,宮下光令.がんサバイバーの心的外傷後成長(Post Traumatic Grouwth:PTG)の関連要因:宮城県がん患者会調査.第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
115. 白川美弥子,矢津剛,沖永美幸,藤春千恵美,佐伯由美,神山芳美,鎌田彩希,田口敦子,菅野雄介,深堀浩樹,宮下光令.在宅緩和ケアの質担保に向けたチェックリストおよび教育プログラムの開発(第 3 報)-実行可能性の評価-.第 23 回日本緩和医療学会学術大会,2018 Jun 15-17,神戸.
116. 田村菜津子,青山真帆,五十嵐尚子,山川みやえ,坂井志麻,深堀浩樹,中西三春,佐藤一樹,長江弘子,高橋在也,宮下光令.認知症患者における望ましい人生の最終段階のあり方についてのインタビュー調査.第 23 回日本緩和医療学会学術大会, 2018 Jun 15-17,神戸.
117. 宮下光令. 調査研究等の最新エビデンス. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会, 2018 Jun 15-17,神戸. (シンポジウム)
118. 青山真帆. 看取りケアのエビデンス. 家族ケア. 第 23 回日本緩和医療学会学術大会シンポジウ, 2018. Jun 15-17, 神戸.（シンポジウム）
119. Chiu C, Aoyama M, Nakano K. English improvement for Japanese nursing students through a global health course: a flipped-classroom approach; The Japan Association for Nursing English Teaching (JANET)

conference; 23-24 June 2018; Fukui.

【小児看護学分野】

120. 後藤清香, 松本公一, 塩飽 仁. 小児がん拠点病院における看護師の復学支援に対する役割意識と課題. 第 16 回日本小児がん看護学会学術集会, 2018 Nov 16; 京都.

121. 入江 亘, 名古屋祐子, 井上由紀子, 菅原明子, 林原健治, 橋本美亜, 塩飽 仁. 造血器腫瘍の診断を受けた子どもをもつ親が"子どものがん"と対峙していくプロセス. 第 16 回日本小児がん看護学会学術集会, 2018 Nov 16; 京都.

122. 清水香織, 菅原明子, 塩飽 仁, 入江 亘. 1型糖尿病をもつ学童前期の子供の病気の理解と療養行動の実施状況. 第 21 回北日本看護学会学術集会, 2018 Aug 26; 山形.

123. 近内彩夏, 塩飽 仁, 入江 亘, 菅原明子. 重症心身障害児とその療育に携わる専門職者のコミュニケーションの特徴. 第 21 回北日本看護学会学術集会, 2018 Aug 25; 山形.

124. 廣谷 伶, 塩飽 仁, 入江 亘, 菅原明子. 大学生の体型に関する認識と心理特性の関連. 第 21 回北日本看護学会学術集会, 2018 Aug 25; 山形.

125. 安藤 華, 塩飽 仁, 入江 亘, 菅原明子. 高校生の Social Network Service 利用と学校における人間関係の関連. 第 21 回北日本看護学会学術集会, 2018 Aug 25; 山形.

【周産期看護学分野】

126. 青木亜紀, 佐藤眞理, 中村康香, 跡上富美, 小山田信子, 吉沢豊予子. 子どもの入院に付き添う母親の子どもから離れた時間と唾液アミラーゼ値の関連. 第 38 回日本看護科学学会学術集会; 2018 Dec. 15-16; 松山.

127. 及川くるみ, 佐藤眞理, 小山田信子. 文献検討を通して見る東日本大震災時に母子が置かれていた状況. 第 21 回北日本看護学会学術集会; 2018 Aug 26; 山形.

128. 中山郁, 佐藤眞理, 小山田信子. 自己肯定感の概念分析. 第 21 回北日本看護学会学術集会; 2018 Aug 26; 山形.

129. 菊池まりや, 佐藤眞理, 小山田信子. 看護系雑誌にみる妊娠・分娩・育児への夫の関わり方の変遷. 第 21 回北日本看護学会学術集会; 2018 Aug 26; 山形.

130. 今井千佳, 佐藤眞理, 小山田信子. 看護職の外国人妊産婦への理解と対応. 第 21 回北日本看護学会学術集会; 2018 Aug 26; 山形.

【ウィメンズヘルス看護学分野】

131. 吉沢豊予子. パネルディスカッション「リンパ浮腫 QOL 評価」2017 年度 第2回 JSLT 教育セミナー. リンパ浮腫治療学会; 2018 Mar. 25; 東京.

132. アンガホッファ司寿子, 武石陽子, 跡上富美, 中村康香, 吉沢豊予子. 子どものいない 30 代有職既婚女性のリプロダクティブライフプランにおよぼす影響. 第 38 回日本看護科学学会学術集会; 2018 Dec. 15-16; 松山.

133. 青木亜紀, 佐藤眞理, 中村康香, 跡上富美, 小山田信子, 吉沢豊予子. 子どもの入院に付き添う母親の子どもから離れた時間と唾液アミラーゼ値の関連. 第 38 回日本看護科学学会学術集会; 2018 Dec. 15-16; 松山.

134. 川尻舞衣子, 中村康香, 伊藤直子, 武石陽子, 跡上富美, 吉沢豊予子. 妊娠中期から妊娠後期にかけての初妊婦における座位行動の特徴. 第 38 回日本看護科学学会学術集会; 2018 Dec. 15-16; 松山.
135. 長坂桂子, 川尻舞衣子, 中村康香. 計画的行動理論に基づいた就労妊婦の身体活動におけるセルフケア行動. 第 38 回日本看護科学学会学術集会; 2018 Dec. 15-16; 松山.
136. 中村康香, 和田彩, 高嶋里会, 武石陽子, 跡上富美, 吉沢豊予子. 第 1 子を妊娠した就労女性の退職理由の実態. 第 38 回日本看護科学学会学術集会; 2018 Dec. 15-16; 松山.
137. 中村康香, 山口典子, 武石陽子, 川尻舞衣子, 跡上富美,吉沢豊予子. 男性不妊患者の挙児希望理由と通院開始までの思い. 第 59 回日本母性衛生学会学術集会; 2018 Oct. 19-20; 新潟.
138. 山口典子, 中村康香, 武石陽子, 川尻舞衣子, 中森美和, 跡上富美, 吉沢豊予子. 男性不妊患者の通院や治療に対する困難さについての実態調査. 第 59 回日本母性衛生学会学術集会; 2018 Oct. 19-20; 新潟.
139. 坂村佐知, 武石陽子, 跡上富美, 中村康香, 吉沢豊予子. 乳児育児期父親の職務ストレスとコペアレンティング(夫婦協同育児)との関連検証. 第 59 回日本母性衛生学会学術集会; 2018 Oct. 19-20; 新潟.
140. 上池梨紗, 中村康香, 武石陽子, 跡上富美, 吉沢豊予子. 第1子の誕生を期待する男性の妊娠期における肯定的な体験―国内外の文献より―. 第 20 回日本母性看護学会学術集会; 2018 Jun 23-24; 越谷.
141. 吉沢豊予子. 教育講演 ウィメンズヘルスにおける助産師の役割～妊娠期から夫婦が共に親力をつけていくために～. 平成 30 年度一般社団法人宮城県助産師会通常総会. 2018 Apr 21; 仙台.

5-6. 外部資金獲得（主任研究） ※2018 年 4 月～2019 年 3 月（前年度からの継続の研究費を含む）

【看護アセスメント学分野】

1. 丸山良子（主任研究者）. 心拍変動解析を用いた超高齢者の全身麻酔後の安全な早期離床評価の試み. 平成 29 年度科学研究費補助金（挑戦的研究（萌芽））. 2017 Apr - 2019 Mar.
2. 丹野寛大（主任研究者）. バイオフィルム形成慢性創傷の治癒促進へ向けたリンパ球制御ケア技術の確立. 平成 29 年度科学研究費補助金（若手研究（B））. 2017 Apr - 2019 Mar.
3. 菅野恵美（主任研究者）. 慢性創傷バイオフィルム誘導に関わるダメージ関連分子の解明と新規ケア技術の確立. 平成 28 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2016 Apr - 2019 Mar.

【看護管理学分野】

4. 朝倉京子, 地域完結型医療で看護職の専門性の発揮を実現する教育支援プログラムの開発. 平成 30 年度科学研究費補助金基盤(C).2018 Apr-2020 Mar.
5. 高田望, 看護実践を肯定的な側面から評価する看護の質評価手法の確立とシステム開発. 平成 30 年度科学研究費補助金基盤(C).2018 Apr-2020 Mar.
6. 二瓶洋子, 看護職の組織文化に内在する機能と組織文化のありように関する研究. 平成 30 科学研究費助成金研究基盤研究(C). 2018 Apr-2020 Mar.
7. 原ゆかり, 看護師の特殊性に着目した職業価値観尺度の開発と関連要因の解明. 平成 30 年度科学研究費助成金若手研究. 2018 Apr-2020 Mar.

8. 朝倉京子（主任研究者）,高田望（分担研究者），二瓶洋子（分担研究者），原ゆかり（分担研究者）．介護施設で働く看護職の専門性と他職種連携に関する実態調査—医療・介護一体型の改革実現する教育研修センター設置を目指して．ユニベール財団研究助成.2017 Oct-2019 Mar.

【老年・在宅看護学分野】

9. 尾﨑章子（主任研究者）．フレイル高齢者における体温リズムに着目した睡眠マネジメントの開発と検証，平成 28 年度科学研究費補助金（基盤研究 B），2016.Apr～2019.Mar.
10. 尾﨑章子（主任研究者）．エンド・オブ・ライフケアにおける在宅・特養での死亡確認をめぐる問題の所在と検討，科学研究費補助金（挑戦萌芽研究），2016.Apr～2020.Mar.

【公衆衛生看護学分野】

11. 大森純子（主任研究者）東北の被災地におけるポジティブ・デビエンスを生かした社会的包摂の実践モデルの開発．平成 30 年度科学研究費補助金（挑戦的研究(萌芽)）．2018 Apr –2020 Mar.

【地域保健学分野】

12. Cindy H Chiu（主任研究者）Using positive psychology to promote psychological and general wellbeing after traumatic events．平成 29 年度 科学研究費補助金（若手研究(B)）． 2017 Apr- 2019 Mar.

【がん看護学分野】

13. 千葉詩織（主任研究者）．進行がん患者のがん疼痛緩和に向けた遠隔看護システムの開発及び有効性の検討．平成 30 年度日本学術振興会科学研究費補助金（研究活動スタート支援）.2018 Sep -2020 Mar.
14. 千葉詩織（主任研究者）．進行がん患者のオピオイド服薬マネジメント尺度の開発．公益財団法人安田記念医学財団 （癌看護研究助成大学院学生）．2017 Dec-2018 Dec.

【緩和ケア看護学分野】

15. 宮下光令（主任研究者）．がん患者に対して終末期に実施された看護ケアと遺族によるケアの質の評価の縦断調査．平成 30 年度学術振興会科学研究費（基盤研究（C））．2018 Apr-2021 Mar
16. 青山真帆（主任研究者）．社会経済的地位ががん患者の QOL と遺族の精神的健康に与える影響．平成 30 年度学術振興会科学研究費（若手研究）．2018 Apr-2021 Mar
17. 宮下光令（主任研究者）．認知症患者の Good Death．平成 28 年度科学研究費（基盤研究（B）特設分野研究）．2016 Apr-2020 Mar
18. 宮下光令（主任研究者）．がん患者に対する緩和医療の質の評価方法の確立（国際共同研究強化）．平成 28 年度科学研究費（国際共同研究加速基金（国際共同研究強化））．2016 -2020 Mar

【小児看護学分野】

19. 橘　ゆり．医療的ケアが必要な在宅重症心身障害児を亡くした家族の語りに基づいた子どもと家族の支援の検討．北日本看護学会 研究奨励会 平成 30 年度奨励研究，2018
20. 入江　亘．小児がんを抱える子供の闘病体験を意味づけていく親への看護支援プログラムの開発，日本学術振興会 平成 29 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）若手研究（B），2017Apr-2019 Mar.
21. 井上由紀子．学校教諭のための病気や障害をもつ子供の復学支援プログラムの開発と検証，日本学術振興会 平成 29 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C），2017 Apr-2019 Mar.

【精神看護学分野】

22. 吉井初美. 統合失調症患者のセルフスティグマ低減および就労意識向上を目的としたメソッドの確立.科学研究費補助金基盤研究(C). H29 年 4 月～H32 年 3 月

【ウィメンズヘルス看護学分野】

23. 中村康香 (主任研究者). 就労妊婦(非正規雇用)の健康と生産性を両立させた働き方モデルの構築. 2018 年度 財団法人ヘルス・サイエンス・センター助成金. 2018 Dec- 2019 Dec.
24. 中村康香 (主任研究者). 就労妊婦の健康と生産性を両立させた働き方モデルの構築. 第 27 回(平成 30 年度) 財団法人ファイザーヘルスリサーチ研究助成. 2019 Mar- 2020 Mar.
25. 川尻舞衣子(主任研究者). 妊娠期における座位行動減少を目的とした介入の効果検証. 平成 30-31 年度日本学術振興会 科学研究費補助金 特別研究員奨励費(DC2). 2018 Apr- 2020 Mar.
26. 吉沢豊予子(主任研究者). 生涯を通じた男性のケアの担い手としての発達支援方法の開発. 平成 29 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2017 Apr- 2020 Mar.
27. 中村康香(主任研究者). 家族基盤に基づくコペアレンティングを促す妊娠期介入プログラムの開発と検証. 平成 28 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2016 Apr- 2019 Mar.

5-7. 外部資金獲得(分担研究) ※2018 年 4 月～2019 年 3 月(前年度からの継続の研究費を含む)

【看護アセスメント学分野】

1. 菅野恵美, 丹野寛大(分担研究者). 糖尿病性足壊疽における好中球 NETs への C 型レクチン受容体の関与・治療への応用. 平成 30 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2018 Apr - 2021 Mar.
2. 丸山良子(分担研究者). 食行動および首尾一貫感覚の関連を含めた慢性ストレスの定量的評価方法の検証. 平成 29 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2017 Apr - 2020 Mar.
3. 菅野恵美(分担研究者). 深部損傷褥瘡(DTI)における炎症誘導機序の解明と治癒促進ケア技術の確立. 平成 29 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2017 Apr - 2020 Mar.
4. 菅野恵美, 丹野寛大(分担研究者). 糖尿病性足壊疽の感染増悪過程における好中球 NETs の関与と新規治療法の開発. 平成 29 年度科学研究費補助金(挑戦的研究(萌芽). 2017 June - 2019 Mar.
5. 丸山良子(分担研究者). 次世代型ケアを創出できる臨床看護師のリサーチマインドを育む教育プログラムの開発. 平成 28 年度科学研究費補助金(挑戦的萌芽研究). 2016 Apr - 2019 Mar.
6. 菅野恵美(分担研究者). 免疫制御を応用した慢性創傷の新規治療法の開発～NKT 細胞は炎症・治癒を支配する～. 平成 28 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)). 2016 Apr - 2019 Mar.

【看護管理学分野】

7. 朝倉京子, 看護実践を肯定的な側面から評価する看護の質評価手法の確立とシステム開発. 平成 30 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2018 Apr - 2020 Mar.
8. 高田望, 地域完結型医療で看護職の専門性の発揮を実現する教育支援プログラムの開発. 平成 30 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)). 2018 Apr - 2020 Mar.

【地域ケアシステム看護学分野】

9. 津野陽子(分担研究者). 第 27 回(平成 30 年度)ファイザー国内共同研究助成「就労妊婦の健康と生産性を両立させた働き方モデルの構築」(研究代表者 中村康香)

10. 津野陽子（分担研究者）大規模コホートデータによる健康と生産性の最適化を目指す働き方モデルの構築. 平成 29 年度科学研究費補助金（基盤研究(C)). 2017 Apr-2019 Mar.

【公衆衛生看護学分野】

11. 田口敦子（分担研究者）地域在住高齢者が持つ生活支援ニーズ量の将来推計方法の確立. 平成 30 年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）. 2018 Apr –2020 Mar.

【緩和ケア看護学分野】

12. 宮下光令（分担研究者）. 臨床倫理システムの哲学的展開と超高齢社会への貢献および医療者養成課程への組込み. 平成 30 年度学術振興会科学研究費（基盤研究（A））. 2018 Apr-2022 Mar.
13. 宮下光令（分担研究者）. 患者・家族と創る日本版アドバンス・ケア・プランニング～人生最終段階の幸せを支える. 平成 30 年度学術振興会科学研究費（基盤研究（B）一般）. 2018 Apr-2021 Mar.
14. 宮下光令（分担研究者）. ビッグデータを用いた非がん終末期の医療と療養場所に関する疫学研究. 平成 30 年度学術振興会科学研究費（基盤研究（B）一般）. 2018 Apr-2021 Mar.
15. 宮下光令（分担研究者）. がんで配偶者を亡くした遺族のためのサポートグループプログラムの開発. 平成 30 年度学術振興会科学研究費（基盤研究（C））. 2018 Apr-2021 Mar.
16. 宮下光令（分担研究者）. がん悪液質による食欲不振・倦怠感に対する薬物療法の複合的研究. 平成 29 年度学術振興会科学研究費（基盤研究（B）一般）. 2017 Apr-2021 Mar.
17. 宮下光令（分担研究者）. スピリチュアルケアを取り入れたアドバンス・ケア・プランニングの有効性の検証. 平成 28 年度科学研究費（基盤研究（B）一般）. 2016 Apr-2019 Mar.
18. 宮下光令（分担研究者）. 高齢者ケア施設における看取りのケアパスの開発. 平成 28 年度科学研究費（挑戦的萌芽研究）. 2016 Apr-2019 Mar.
19. 宮下光令（分担研究者）. 医療ビッグデータを用いた緩和医療の質評価および臨床課題の疫学調査方法の開発と測定. 平成 28 年度 AMED 委託研究開発. 2016 Apr-2019 Mar
20. 宮下光令（分担研究者）. 臨床倫理検討システムの哲学的見直しと臨床現場・教育現場における展開. 平成 27 年度学術振興会科学研究費（基盤研究（A））. 2015 Apr-2019 Mar.
21. 宮下光令（分担研究者）. 市民と専門職で協働する日本型対話促進 ACP 介入モデルの構築とエビデンスの確立. 平成 27 年度学術振興会科学研究費（基盤研究（A））. 2015 Apr-2020 Mar.

【小児看護学分野】

22. 入江　亘, 塩飽　仁(分担研究者). 学校教諭のための病気や障害をもつ子供の復学支援プログラムの開発と検証, 日本学術振興会 平成 29 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）, 2017 Mar -2019 Apr.

【ウィメンズヘルス看護学分野】

23. 中村康香(分担研究者). ウェアラブル機器を用いた妊婦の身体活動の可視化による活動パターンと評価指標の検討. 平成 28 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））. 2016 Apr- 2019 Mar.

5-8. 外部資金獲得（その他） ※2018 年 4 月～2019 年 3 月

【ウィメンズヘルス看護学分野】

1. 吉沢豊予子. Co 育てプログラム. 受託研究費（江崎グリコ/博報堂）. 2018 Oct- 2020 Feb.